

2018 年度事業報告

自 2018 年 4 月 1 日

至 2019 年 3 月 31 日

I . 2018 年度総括

2018 年の経済成長率は設備投資や個人消費の増加を背景にプラス 0.7%となり、2012 年から 7 年連続のプラス成長となった。夏の自然災害により個人消費は 7~8 月期に落ち込んだが、10~12 月期には回復した。訪日外国人客数は前年比 8.7%増の 3,119 万 2 千人（日本政府観光局（JNTO）調べ）となり、過去最高を更新、地域間に偏りがあるものの、インバウンド需要は依然として大きく伸びている。人手不足問題は依然厳しい状況が続き、企業は人材確保、生産性向上等に腐心している。

SC 業界に目を向けると、新たにオープンした SC 数は 37、前年に比べて 11SC 減少し、SC 総数は 3,220 となった。新たにオープンした SC の面積は 5 万㎡を超える SC が 6、SC の平均面積は 2 万㎡を超え、前年にオープンした SC に比べて大型 SC が目立った。

自然災害の影響による売上の減少は一時的なものに留まり、既存 SC の売上高前年比は+0.6%、全 SC ベースの年間総売上高は 32 兆 6,595 億円（推計）で前年比+1.9%だった。業種別では、年間を通して飲食とサービスが好調な SC が多かった。

さて、当協会は 2018 年度、会員サービスレベルのいっそうの向上に取り組んだ。

通常のセミナーに加えて Web セミナーを実施、地方会員にも受講し易い方法を試行した。これまで紙媒体で発行していた月刊誌にデジタル版を加え、購読者の利便性を高めた。

SC 業界の人材確保対策の取組みでは、2018 年 1 月に発表した「ショッピングセンターにおける ES 宣言・行動指針」を受け具体的に進めた。ES 宣言のシンボルマークを作成し各 SC に活用を呼び掛けるとともに、テナント従業員の採用を支援する「ES 向上・人材確保特設サイト」を開設した。2015 年度に創設されたテナント従業員のステータス向上を目的とした SC 接客マイスターの資格者は 1,205 名となり、年々着実に増えている。

情報発信の面では、SC に関連する公共政策的施策について随時制度改正等の説明会を開催したほか、月刊誌のテーマや各種セミナーのテーマにキャッシュレス決済や AI 化などを取り上げた。

これらのほかにも会員サービスの向上に不断に取り組む、2018 年度末の会員数は 966 社となった。

Ⅱ. 総会、理事会、企画会議

1. 定期総会<5月31日>

- (1) 第1号議案 人材確保対策の取組みについて
- (2) 第2号議案 2017年度事業報告について
- (3) 第3号議案 2017年度決算報告について
- (4) 第4号議案 2018年度事業計画について
- (5) 第5号議案 2018年度収支予算について
- (6) 第6号議案 理事の選任について
- (7) 第7号議案 その他

2. 理事会

(1) 第1回理事会(4月26日)

- 1) 入会、退会について
- 2) 人材確保対策への取組みについて
- 3) 委員会組織の一部見直しについて
- 4) 2017年度事業報告について
- 5) 2017年度決算報告について
- 6) 2018年度事業計画について
- 7) 2018年度収支予算について
- 8) 第46回定期総会の開催について
- 9) その他

(2) 第2回理事会(10月27日)

- 1) 入会、退会について
- 2) 2017年度上半期事業報告について
- 3) 2017年度上半期収支報告について
- 4) 人材確保対策の取組みについて
- 5) 第46回定期総会の開催について
- 6) 第43回日本SC全国大会の開催について
- 7) 2018年度税制改正要望について
- 8) その他

3. 企画会議

(1) 第1回企画会議(10月16日)

- 1) 入会、退会について
- 2) 2018年度上半期事業報告について
- 3) 2018年度上半期収支報告について
- 4) 第47回定期総会の開催について
- 5) 第44回日本SC全国大会の開催について
- 6) 2019年度税制改正要望について
- 7) その他

(2) 第2回企画会議(3月26日)

- 1) 入会、退会について
- 2) 2018年度事業活動総括、2019年度事業計画について
- 3) 2018年度収支見込み、2019年度収支予算について
- 4) 第8回日本SC大賞、第6回地域貢献大賞の選考結果について
- 5) 第47回定期総会の開催について
- 6) その他

Ⅲ. 支部活動報告

(2018年4月～2019年3月)

支部名	活動報告
北海道支部	<p>(1) 第1回運営委員会(9月20日/株4丁目プラザ 役員室)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①2018年度 北海道支部活動スケジュール ②SC接客ロールプレイングコンテスト北海道大会について ③第8回日本SC大賞、第6回地域貢献大賞の選考について ④研修会(支部主催セミナー)について ⑤支部活動へのご提案・お願いについて <p>(2) 北海道万引防止ウィーブネットワーク定期総会(6月)</p> <p>(3) 第8回日本SC大賞・第6回地域貢献大賞ノミネート委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回(9月20日・株4丁目プラザ 役員室) ・第2回(11月1日・株4丁目プラザ 役員室) <p>(4) SC接客ロールプレイングコンテスト 北海道大会(11月10日・JRタワープラニスホール)</p> <p>競技者合計34名(前年度43名)</p> <p>ファッション・物販部門・・・25名(前年度35名)</p> <p>食品・飲食・サービス部門・・・9名(前年度8名)</p> <p>(5) 支部主催研修会(2019年3月29日・ホテルオークラ札幌)</p> <p>テーマ:日本の都市特性評価2018～札幌市の強み・弱み</p> <p>講師:(一財)森記念財団都市研究所 理事 市川 宏雄 氏</p> <p>参加者数:55名</p> <p>(6) 支部総会</p> <p>期日:2019年3月29日(金)17:10～</p> <p>会場:ホテルオークラ札幌 3階 オーク</p>
東北支部	<p>(1) 運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1回(6月14日・ホテルメトロポリタン仙台) ②第2回(10月10日・ホテルメトロポリタン仙台) ③第3回(2019年2月13日・ホテルメトロポリタン仙台) <p>(2) ロープレ事前研修会(10月3日・ヒューモスファイヴ) 参加者33名</p> <p>テーマ:「SC接客ロールプレイングコンテスト東北大会(10/31・11/1)に向けて」</p> <p>講師:稲葉 麻美 氏(株トリビュート 代表取締役)</p> <p>(3) 秋の研修会 参加者46名</p> <p>(10月10日・ホテルメトロポリタン仙台)</p> <p>テーマ:「東北地域経済の動向について」</p> <p>講師:相馬 広志 氏(経済産業省 東北経済産業局 企画調査課長)</p> <p>(4) SC接客ロールプレイングコンテスト東北大会(10月31日～11月1日・ホテルメトロポリタン仙台)</p> <p>出場者63名(前年60名)</p> <p>(5) 日本SC大賞・地域貢献大賞 東北支部ノミネート委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1回(9月26日・ホテルメトロポリタン仙台) ②第2回(11月6日・ホテルメトロポリタン仙台) <p>(6) 支部総会(2019年2月13日・ホテルメトロポリタン仙台) 参加者81名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新春講演会 テーマ:「いま、時代の大きな変化の時 SC対応はどうあるべきか」 講師:村上 教行 氏(イオンモール株 顧問) ・賀詞交歓会

<p>関東・甲信越 支部</p>	<p>(1)運営委員会 ①第1回(7月5日・協会会議室) ②第2回(12月6日・六本木ヒルズ会議室)</p> <p>(2)SC接客ロールプレイングコンテスト関東・甲信越大会 ①関東・甲信越大会(9月4～7、10、11日) KFCホール 出場者308名(前年出場者292名) ②東京大会(10月1～5日) KFCホール 出場者195名(前年出場者186名)</p> <p>(3)日本SC大賞・地域貢献大賞ノミネート委員会 ①第1回(10月2日・協会会議室) ②第2回(11月1日・協会会議室)</p> <p>(4)SC業界若手育成研究会 ①第11回SC業界若手育成研究会(11月15日) 参加者51名 『外国人雇用の基礎とイキイキと働ける職場環境のつくり方』 基礎講座「外国人雇用の動向と対策」 講師:株グローバルパワー 代表取締役 竹内 幸一 氏((一社)外国人雇用協議会 理事) ケーススタディ「吉野家実践する外国人雇用対策」 講師:株吉野家 関東営業本部管理担当 斉藤 実 氏 ②第12回SC業界若手育成研究会(3月13日) 参加者83名 『SCトレンド2019～トレンドから未来のSCを考える～』 基調講演①「専門誌編集長に聞く!2018年の商業トレンドと、2019年の予測」 講師:株産業タイムズ社「商業施設新聞」編集長 松本 顕介 氏 基調講演②「“書店の再定義”に挑む有隣堂」 講師:株有隣堂 専務取締役 松信 健太郎 氏 特別プレゼンテーション「商空間デザインのトレンド」 講師:株乃村工藝社 プランニング統括部プランニングディレクター 鈴木 早穂子 氏</p> <p>(5)単館SC研究会 ①第26回単館SC研究会(6月6日) ②第27回単館SC研究会(東北地区視察、9月20～21日) ③第28回単館SC研究会(11月27日) ④第29回単館SC研究会(2月28日)</p> <p>(6)支部主催研修会 六本木ヒルズ視察研修会+懇親会(12月6日)参加者52名 「新たな食文化の発信拠点が誕生した六本木ヒルズの活性化策」 講師:森ビル(株) 六本木ヒルズ商業運営室室長 穂山 壮志 氏 「美味しさ、素材にこだわった商品をあなたの食卓へ!“グランドフードホール”の戦略」 講師:株グランドフードホール 代表取締役社長 岩城 紀子 氏</p> <p>(7)支部総会(3月4日・協会会議室) 参加者29名 (第1部)支部総会 (第2部)講演会『外国人雇用の動向と課題、SCがとるべき対応とは』 講師:株グローバルパワー 代表取締役/(一社)外国人雇用協議会 理事 竹内 幸一 氏 (第3部)懇親会</p>
----------------------	---

中部支部	<p>(1)運営委員会</p> <p>①第1回(7月17日・コンベンションルーム AP 名古屋)</p> <p>②第2回(12月11日・コンベンションルーム AP 名古屋)</p> <p>③第3回(3月13日・TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口)</p> <p>(2)支部主催研修会(12月11日・コンベンションルーム AP 名古屋) 参加者 36名 テーマ「都市のライフスタイル型マーケティング」 ～フライトオブドリームズ開業報告を題材として～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基調講演 『ポートランドにおけるライフスタイルとMD への展開』 講師:青山学院大学大学院国際マネジメント研究科教授 宮副 謙司 氏 ・開業報告 『フライトオブドリームズの開発とシアトル系 MD の展開』 講師:中部国際空港(株) 営業企画部長 鈴木 健一 氏 ・ディスカッション、まとめと質疑 『都市のライフスタイル型マーケティング』 宮副教授と鈴木部長をまじえたディスカッション 講師:名古屋市立大学研究員・SC 経営士(19期) 池澤 威郎 氏 <p>(3)第8回日本 SC 大賞・第6回地域貢献大賞ノミネート委員会</p> <p>①第1回(9月27日・(株)メルサ 会議室)</p> <p>②第2回(11月6日・(株)メルサ 会議室)</p> <p>(4)SC 接客ロールプレイングコンテスト中部大会(10月23～25日・名古屋市中小企業振興会館) 出場者 117名 (前年 114名)</p> <p>(5)支部総会(3月13日・TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋新幹線口) 参加者 57名 セミナー:「SC における改正割賦販売法対応とキャッシュレス化の未来」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講演 1「改正割賦販売法を踏まえた加盟店におけるセキュリティ対策について」 講師:(一社)日本クレジット協会 セキュリティ対策推進センター 主幹 大杉 耕平 氏 ・講演 2「SC に求められるキャッシュレスサービスへの対応 ～法制度対応から QR 決済、その先へ～」 講師:(株)NTT データ カード&ペイメント事業部 部長 本多 弘典 氏 ・講演 3「I. 包括対応におけるカード会社との契約実務・店子調査」 「II. キャッシュレス化の動向」 講師:(株)ジェーシービー 東海支社長 山内 研司 氏 <p>・講師陣 3名への質疑応答</p>
------	---

近畿支部	<p>(1)運営委員会</p> <p>①第1回(7月30日・サードプレイス弥生)</p> <p>②第2回(12月10日・サードプレイス弥生)</p> <p>(2)SC研究会</p> <p>①第1回(7月2日 ピオレ姫路ピオレ 1 6Fピオレホール/参加者 65名) テーマ:『SC・テナントの ES について 第一弾 事例研究』 講師:神戸SC開発(株) 姫路営業所 副所長 松原 友紀氏</p> <p>②第2回(9月7日 芦屋モンテメール 6F 会議室/参加者 68名) テーマ:『テナントの ES について 第二弾パネルディスカッション』</p> <ul style="list-style-type: none"> ■基調講演 「飲食業の人手不足の現状と ES への取り組み、 テナントの人材確保、育成について (カフェ英国屋の事例を中心に)」 講師:荻原 奨氏 三和実業(株) 代表取締役社長 (一社)日本ショッピングセンター協会近畿支部副支部長 (一社)大阪外食産業協会 会長 大阪府喫茶飲食生活衛生同業組合 副理事長 ■パネルディスカッション 「SC・テナントの ES について」
------	--

	<p>コーディネーター 加藤 司氏 大阪商業大学大学院 教授 パネラー 荻原 奨氏 三和実業(株) 代表取締役社長 松原 友紀氏 神戸SC開発(株) 姫路営業部 副部長 高草木 晶氏 (株)京阪流通システムズ 取締役店舗サポート担当部長 太田 泰史氏 (株)朝日ビルディング 商業施設部 部長 上村 俊幸氏 阪急阪神ビルマネジメント(株) SC 第1営業部 担当部長</p> <p>③第3回(12月3日 天王寺MIO MIOホール/参加者 73名) テーマ:「天王寺MIOにおけるES向上に向けた取り組み」 講師:天王寺SC開発(株) 営業本部 CS推進・運営支援部 次長 高島 富美代氏</p> <p>(3) 単館 SC 交流会</p> <p>①第1回 (5月24日 大川創業(株) 会議室 参加者 24名) ・2018年度の活動計画について ・情報交換等</p> <p>②第2回 (8月24日 芦屋サロンモンテメール 6F 会議室 参加者 27名) ・事例講演 【講師】 東急不動産 SC マネジメント(株) テナント開発部 第2開発課(関西)リーダー 小島 陽子氏 【講演テーマ】 リーシングリニューアル時におけるリーシング業務の進め方 —あべのキューズモールでの事例— 等</p> <p>・事前アンケートによる情報交換</p> <p>③第3回 (11月9日 芦屋サロンモンテメール 6F 会議室 参加者 34名) ・事例講演 【講師】 ニッケ・タウンパートナーズ(株) 代表取締役社長 阪本 正一氏 【講演テーマ】 郊外型SCのサバイバル策</p> <p>・事前アンケートによる情報交換</p> <p>④第4回 (2月15日 芦屋サロンモンテメール 6F 会議室 参加者 25名) ・2019年度 単館SC交流会開催計画(案)と活動計画(案) ・「SC経営士会」・「SC研究会」との連携について ・事前アンケートによる情報交換</p> <p>(4) SC接客ロールプレイングコンテスト近畿大会(10月16日～19日) ホテル京阪京橋グランデ 出場者 189名(前年出場者 189名)</p> <p>(5) 支部総会(3月15日・ホテルグランヴィア大阪)</p> <p>①支部総会 ②SCフォーラム 講演:『よなよなエール流 熱狂を生むチームづくり ～8年連続赤字から13年連続増収増益までの軌跡～』 講師:(株)ヤッホーブルーイング 代表取締役社長 井手 直行氏</p> <p>③懇親会</p> <p>(6) 第8回日本SC大賞・第6回地域貢献大賞ノミネート委員会</p> <p>①第1回ノミネート委員会(9月6日・サードプレイス弥生) ②第2回ノミネート委員会(10月15日・サードプレイス弥生) ③第3回ノミネート委員会(11月29日・芦屋サロンモンテメール)</p>
中国・四国 支部	<p>(1) 運営委員会</p> <p>①第1回運営委員会(8月7日 山陽SC開発(株) 会議室) ・2018年度中国・四国支部活動スケジュール(確認) ・SC 接客ロールプレイングコンテスト中国・四国大会について ・研修会、中国・四国支部総会&講演会について ・支部活動へのご提案・お願いについて</p> <p>②第2回運営委員会(12月7日・中国 SC 開発(株) 会議室) ・2018年度第3回運営委員会&支部総会の開催について</p>

	<p>(2) 視察研修会(12月7日 ジ アウトレット広島) 参加者 27名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・概要説明 ・バックヤードの視察 ・交流会 <p>(3) 支部総会(3月14日 山陽SC開発(株) 会議室)</p> <p>記念講演 テーマ「日本のキャッシュレス事情」 ～時代の流れを知り、SCの未来を考える～</p> <p>講師:奥村 拓史 氏 (株)三菱総合研究所 社会 ICT イノベーション本部 主席研究員</p> <p>(5) SC 接客ロールプレイングコンテスト中国・四国大会 (11月5日～6日・さん太ホール)</p> <p>競技者数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファッション・物販……………63名(前年度=65名) ・食品・飲食・サービス…………… 18名(前年度=23名) <p>(6) 第8回日本 SC 大賞・第6回地域貢献大賞ノミネート委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1回(9月26日・山陽 SC 開発(株) 会議室) ②第2回(10月30日・山陽 SC 開発(株) 会議室)
--	--

九州・沖縄 支部	<p>(1) 運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1回(10月11日・ソラリアステージ) <p>(2) SC経営強化セミナー&懇親会(10月11日・ソラリアステージ/参加者45名)</p> <p>『AIやIoTで「個客」とのつながりを築く、パルコのICT活用事例 ～「POCKET PARCO」「PARCOスキル」などの導入～』</p> <p>講師:(株)パルコ 執行役グループ ICT 戦略室担当 林 直孝 氏</p> <p>(3) SC接客ロールプレイングコンテスト九州・沖縄大会(11月13日14日・西鉄ホール)</p> <p>出場者 87名 (前年 89名) / ファッション・物販部門 64名、食品・飲食・サービス部門 23名</p> <p>(4) 第8回日本 SC 大賞・第6回地域貢献大賞ノミネート委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ①第1回(10月11日・ソラリアステージ) ②第2回(11月22日・ソラリアステージ) <p>(5) 支部総会(2019年3月20日・西鉄イン福岡)</p> <p>(6) SC経営強化セミナー&懇親会(2019年3月20日・西鉄イン福岡/参加者86名)</p> <p>『テクノロジーが切り拓く施設運営の新しいカタチ～三菱地所のロボット活用・DX戦略～』</p> <p>講師:三菱地所(株)ビル運営事業部 兼 経営企画部 DX 推進室 統括 渋谷 一太郎 氏</p>
-------------	--

IV. 委員会事業報告

1. 総務委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

【総務委員会】

- (1) 第1回総務委員会<7月18日>
 - 1) 入会、退会について
 - 2) 2018年度第1四半期事業報告について
 - 3) 2018年度第1四半期収支報告について
 - 4) 人材確保対策の取組みについて
 - 5) その他

- (2) 第2回総務委員会<10月16日>
 - 1) 入会、退会について
 - 2) 2018年度上半期事業報告について
 - 3) 2018年度上半期収支報告について
 - 4) 第47回定期総会の開催について
 - 5) 第44回日本SC全国大会の開催について
 - 6) 2019年度税制改正要望について
 - 7) その他

- (3) 第3回総務委員会<3月22日>
 - 1) 入会、退会について
 - 2) 2018年度事業活動総括、2019年度事業計画について
 - 3) 2018年度収支見込み、2019年度収支予算について
 - 4) 第8回日本SC大賞、第6回地域貢献大賞の選考結果について
 - 5) 第47回定期総会の開催について
 - 6) その他

【人材確保対策特別委員会】

- (1) 第1回人材確保対策特別委員会<7月18日>
 - 1) シンボルマークについて
 - 2) ES向上・人材確保の特設サイトについて

- (2) 第2回人材確保対策特別委員会<10月9日>
 - 1) 今後の取組みについて

- (3) 第3回人材確保対策特別委員会<3月5日>
 - 1) 2019年度の取組みについて

2. 主な活動報告

【総務委員会】

総務委員会では、主に次の項目について審議をおこない、企画会議に諮った。

- (1) 会員の入退会と会員サービスについて
- (2) 人材確保対策の取組み推進について
- (3) 第8回日本SC大賞、第6回地域貢献大賞の選考について
- (4) 2018年度事業活動総括、2019年度事業計画について

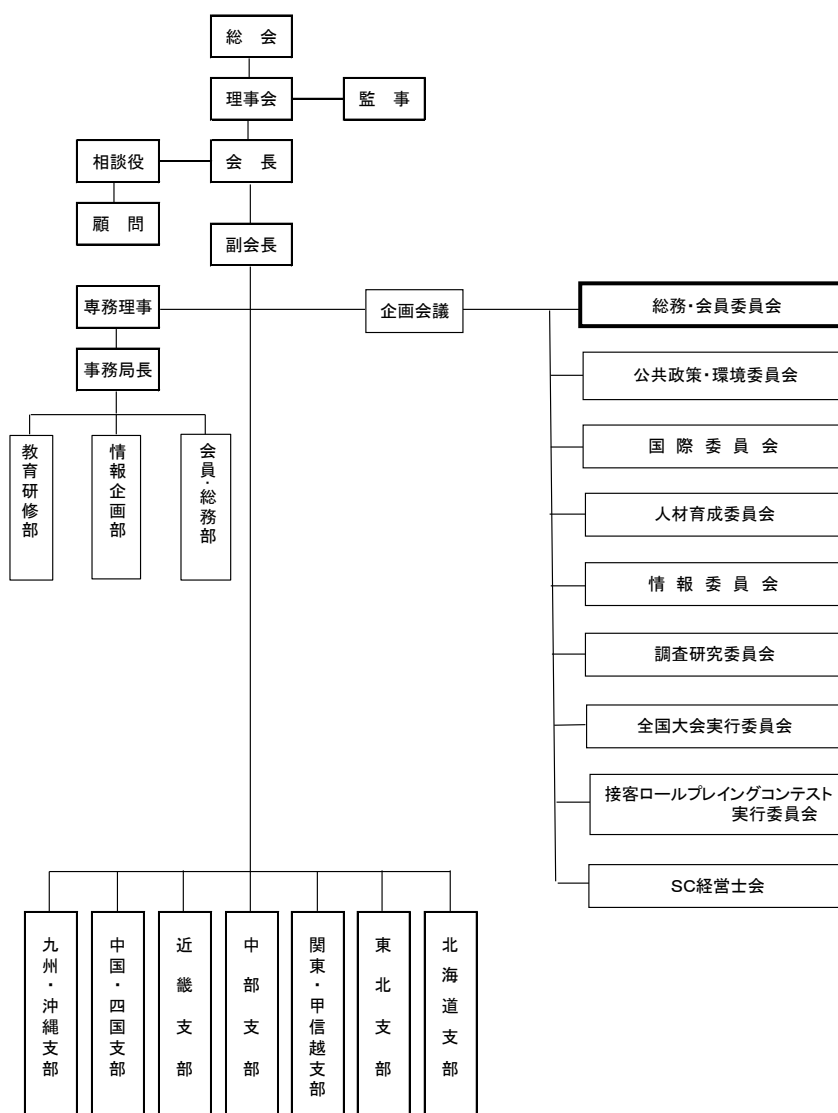
(5) 2018 年度収支見込み、2019 年度収支予算について

■ 会員の入退会状況 (2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)

会員種別	前期末	2018 年度				
		入会	退会	種別 変更	期末	増減
第一種正会員	328	8	14	-1	321	-7
第二種正会員	330	11	19		322	-8
賛助会員	322	16	16	1	323	1
合計	980	35	49		966	-14

■ 2019 年度第 1 回理事会にて審議した結果、総務委員会の名称を総務・会員委員会に変更することとなった。
(新組織図)

(一社) 日本ショッピングセンター協会組織図



【人材確保対策特別委員会】

(1) 総括

2018年度は、「ショッピングセンターにおけるES宣言・行動指針」を踏まえ、ES宣言・行動指針の周知、講習機会の提供、広報などに取り組んだ。その取組みと人手不足の深刻化が相まって、現在、ES向上はSC業界における大きなトレンドとして定着しつつある。

(2) 事業報告

1) シンボルマークの作成(6月)

- ① ES向上・人材確保に向けた取組みを広く発信し、取組みの拡大と認知を高めるために作成
- ② 利用ガイドライン策定

2) ES特設サイトスタート(8月)

一般向け、企業・広報向けとして以下5つのコンテンツをローンチ※販売職の魅力動画は9月14日より

- ① SC接客マイスターが語る販売職の魅力 ※出演協力いただいたSHIPS社では採用活動で動画利用
- ② スタッフインタビュー(小田原ダイナシティのテナント従業員)
- ③ ショッピングセンター紹介(小田原ダイナシティ、新静岡セノバ)
- ④ 就職お役立ち情報(お仕事紹介、マッチング診断、履歴書のヒント、働くスタッフの1日)
- ⑤ SC協会のESの取組み(ES宣言、シンボルマーク、各社人材確保の取組み他)

3) 人材確保に関するセミナーの開催

- ① 本部セミナー開催(2019年度は2回開催。 ※第1回、第2回は前年度実施)

【第3回】7/26(木)

- ・求人現況から考える、SCでの求人課題とその解決に向けての取組み
- ・働く場所、働きつづける場所としてJR博多シティを選んでいただくためのES施策
- ・ビームスにおける求人・ES施策について

【第4回】3/7(木)

- ・今までの固定概念を捨てて人手不足と本気で向き合い獲得する方法
- ・定着率を高めるために「プレミアム・アウトレットにおけるES施策」
～日本の労働力を考える。避けられない働き手不足から迫る危機とは～

- ② 支部セミナーの開催

・関東甲信越支部

関東甲信越支部第11回SC業界若手育成研究会

「外国人雇用の基礎とイキイキと働ける職場環境の作り方」(11月)

関東甲信越支部(総会&講演会)

「外国人雇用の動向と課題、SCがとるべき対応とは」(3月)

・近畿支部

第1回「SC・テナントのESについて 第一弾 事例研究」(7月) 松原 友紀氏(神戸SC開発)

第2回「テナントのESについて 第二弾 パネルディスカッション」(9月) 荻原 奨氏(三和実業)

第3回「天王寺MIOにおけるES向上に向けた取組み」(12月) 高島 富美代氏(天王寺SC開発)

- ③ シンポジウム・セミナー(SCビジネスフェア)の開催(1/24 15:30~17:30)

・SCを安全で楽しく、誇りが持てる職場とするためには? ~テナントからディベロッパーへの提案~

・コーディネーター (株)R・B・K 代表取締役 飯嶋 薫 氏

・パネリスト (株)アダストリア 代表取締役会長兼社長 福田 三千男 氏

(株)ユナイテッドアローズ 代表取締役社長 竹田 光広 氏

ロイヤルホールディングス(株) 代表取締役会長兼CEO 菊地 唯夫 氏

4) 人材確保に関する調査の実施

「ES向上・人材確保に関する定量調査」を実施(10月)

5) ESに関する広報

- ① 定例記者懇談会(夏季・冬季)

- ・夏季(7/25) ESシンボルマーク、ES特設サイト開設などのES取組みを発信
 - ・冬季(12/20) ES 向上・人材確保に関する定量調査速報、各社の取組み及び協会取組みを発信
 - ②月刊誌「SC JAPAN TODAY」
 - ・4月号「SCの働き方改革とES宣言～人材確保に待ったなし～」
 - ・7月号「キャッシュレス決済～導入への期待と課題～」(人手不足対策となるテクノロジーを紹介)
 - ③SC 全国大会での告知(パネル展示、動画放送等)
 - ・接客ロールプレイングコンテスト支部大会
 - ・全国大会でES特設ページ等の告知(フリーペーパー)
 - ・無料セミナーの幕間でES宣言のシンボルマーク映写
 - ・全国大会主催者ブースでES宣言のパネル展示・動画放送
 - ・ビジネスフェアエントランスでESに関するパンフレット配布
 - ・学生向け業界研究イベントでESパネル展示
 - ④ロールプレイング大会支部大会でのESパネル展示
関東甲信越支部、北海道支部など
 - ⑤日本スーパーマーケット協会でのESに関する講演
ショッピングセンターにおけるESの取組みについて(古屋専務)
- 6) モデル SC の顕彰・紹介
SC 大賞にてES宣言に準拠した優れた取組みを評価しES賞を選定(2019年度)

2. 公共政策・環境委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

- (1) 第1回委員会<7月6日>
 - 1) 2019年度税制改正要望について
 - 2) 2018年度SCにおけるエネルギー量実態調査について
 - 3) 2018年度クールシェア・ウォームシェアへの参加について
- (2) 第2回委員会<12月4日>
 - 1) 説明会の開催について
 - 2) 地域貢献ガイドラインフォローアップ調査について
- (3) 第3回委員会<3月8日>
 - 1) 2019年度公共政策・環境委員会 基本方針及び事業計画骨子(案)
 - 2) 2019年度公共政策・環境委員会 収支予算(案)

2. 主な活動報告

(1) 総括

2018年度においては、委員会参加を含め政府機関等との連携による情報収集、その中で適宜調整や要望等を行うと共に、会員へのタイムリーな情報提供に努めた。今年度施行された「ショッピングセンター業界のベンチマーク制度」「改正割賦販売法(セキュリティ対策)」に加え、次年度の消費税増税に伴う軽減税率制度や反動減対策・改正入管法、また東京都における制度検討や東京2020大会に向けた施策まで、喫緊の政策等に関して幅広く説明会または意見交換会を開催し会員ニーズに応えるべく取り組んだ。

また今年度も低炭素社会実行計画フォローアップ調査やクールシェアと言った環境問題への取り組み、震災復興支援の取り組み、プレミアムフライデーへの協力等を行った。

(2) 事業報告

1) 税制等改正要望(2019年度)

消費税免税制度における各種緩和の他、2019年度に控える消費税率引き上げ後の需要変動平準化策・軽減税率制度円滑実施、また2018年に様々な災害が発生した事を受け、防災拠点等の機能を有する商業施設への税制上の優遇措置等、税制に加え制度改善を含めた10項目の要望を行った。

その中で「消費税の総額表示及び外税表示方式の併用」「企業主導型保育事業に係る特例」「コージェネレーションに係る固定資産税の軽減措置」は延長の方向であり、「中小企業向けIT関連補助金の対象事業者範囲の拡大」は中小企業のDVのシステム変更について対象に含まれる予定となっている。その他項目についても引き続き要望を行う。

2) 法律・制度等に関する説明会・意見交換会等の実施

政府機関との連携による情報収集、適宜調整や要望を行い、SCにおいて影響度の高い法改正・制度改正に関する説明会を幅広く開催。会員への直接的な情報提供や意見交換に努めた。

<説明会・意見交換会開催>

- ・省エネ法におけるベンチマーク制度
- ・改正割賦販売法(セキュリティ対策)
- ・東京都「キャップ&トレード制度」
- ・消費税軽減税率制度
- ・2019年度政策関連(消費税増税の反動減対策・入管法改正)

・東京 2020 大会に向けた交通需要マネジメント(テレワーク等)

3) プレミアムフライデーの取り組み

プレミアムフライデー推進協議会に参画し、消費拡大になり得る機会の1つとして継続的な情報提供を行うと共に、“働き方改革”と連動した2周年イベントにおいて竹内委員長が登壇し、これまでの業界における取り組みについて発表した。

4) 低炭素社会実行計画フォローアップ調査(SCにおけるエネルギー量実態調査)

「低炭素社会実行計画」に基づいて2018年度もフォローアップ調査を実施した。エネルギー原単位は $0.115\text{kWh}/\text{m}^2\cdot\text{h}$ となり、前年度に比べ減少した。参加企業数は100社470SCとなり、前年度92社464SCから増加している。新規回答は12社12SCとなった。調査結果は2019年1月に例年通り経済産業省へ提出した。

5) 地域貢献ガイドラインフォローアップ調査

「ショッピングセンターの地域貢献ガイドライン」(2007年1月策定、2014年3月一部改訂)におけるフォローアップ調査を実施し、104の回答を得た(前回71)。調査結果はSC白書2019やHP等で公表。

6) クールシェア・ウォームシェアへの協力

2018年度も引き続き、地域生活者と協働した環境問題への取り組みとして、会員企業に対するクールシェア・ウォームシェアへの協力依頼、協会が作成したポスターデータの提供等を行った。

7) 震災復興支援の取り組み

東日本大震災の復興支援として、2018年度も会員企業の協力により、協会が仲介または後援等のサポートを行う形で2つのSCにおいて復興支援イベントを開催いただいた。

3. 国際委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

(1) 第1回委員会<7月26日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会(2018年3月6日)報告
- ② 2018年度国際委員会事業計画骨子(確認)
- ③ 2018年度国際委員会活動計画(概要)
- ④ マレーシアSC協会主催「PPKM AWARDS」審査員について
- ⑤ 国際交流

2) 審議事項

- ① 国際交流(APRC、CASC)
- ② 税制改正要望への対応
- ③ インバウンドに関わる情報提供

(2) 第2回委員会<11月13日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会報告
- ② SCホームページの多言語化サポート
- ③ 国際交流
 - ・台湾SC協会の日本視察ツアーへの協力
 - ・マレーシアSC協会の日本視察ツアーへの協力及び参加者との交流
 - ・マレーシアSC協会主催「PPKM AWARDS」の審査
 - ・APRC(アジア太平洋調査委員会)会議参加
- ④ その他
 - ・小売業の多言語対応ガイドラインについて
 - ・次世代テクノロジー研究会 上海・杭州流通決済視察について

2) 審議事項

- ① インバウンド特設サイトについて

(3) 第3回委員会<3月12日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会報告
- ② 国際交流
 - ・ICSC(国際ショッピングセンター協会)との交流
- ③ 2018年度国際委員会活動総括
- ④ 2018年度国際委員会収支見込
- ⑤ その他
 - ・インバウンド特設サイトについて

2) 審議事項

- ① 2019年度国際委員会基本方針及び事業計画骨子(案)
- ② 2019年度国際委員会スケジュール(案)
- ③ 2019年度国際委員会収支予算(案)

2. 主な活動報告

(1) 総括

2018年(暦年)は訪日外国人旅行者数が前年比8.7%増の3,119万2千人となり、政府が目標として掲げている2020年4,000万人の実現が目前に迫ってきた。旅行消費額(速報)も過去最高の4兆5,064億円となり、2012年以降7年連続で対前年増を継続している。また、消費行動に関しては、カメラや電化製品などから、化粧品や医薬品、トイレタリーなどへのシフトがみられた。

こうしたなか、2018年度は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、あるいはポスト五輪を見据えて、地方を含めたSCがインバウンド対応をよりいっそう進めることができるよう、「インバウンド」に関わる情報発信を強化した。また、国際会議への出席など、国際交流も継続して行った。

(2) 事業報告

1) インバウンドに関わる情報提供

① インバウンド特設サイトの開設

SCのインバウンド対応を進めて来館者増につなげていただくことを目的に、インバウンドに関する統計・データ、取り組み事例集、受入環境整備、ガイドラインなどの情報提供を行うため、協会ホームページの「会員専用」ページ内にインバウンド特集の専用ページを3月28日に開設した。サイト開設については月刊誌、メルマガなどを通じて会員へご案内した。

② SCホームページ多言語化のサポート

ジャパンショッピングツーリズム協会様が提供する“JAPAN SHOPPING NOW”を通じて、ショッピングセンターのホームページの多言語対応を推進していただくため、9月中旬にディベロッパー会員へ優待参加のご案内を郵送し、2月末にメルマガでもご案内した。

3月1日時点で、5社15施設のお申込があった。

2) 国際交流

① APRC(アジア太平洋調査委員会)会議参加

APRC(Asia-Pacific Research Council)はICSCが主催するアジア太平洋地域の調査委員会である。四半期毎の電話会議のほか、年に1回REConアジア太平洋の開催に合わせて、メンバーが集まり会議を開催している。今年は、マレーシア・クアラルンプールで開催され、協会からは高野委員長と事務局の金田の2名で出席し情報交換ならびに参加者との交流を行った。

・開催日:10月22日(月)14:00~17:00

・開催国:マレーシア・クアラルンプール

・参加者:11名 ICSC(1名)、シンガポール(2名)、香港(1名)、マレーシア(3名)、ベトナム(1名)、中国(1名)、日本(2名/SC協会)

<議題>

i. 各国の業界トピックス(2分~3分/人)

ii. ICSC調査報告

タイトル:The Halo Effect ~ How Bricks Impact Clicks ~

調査の結果、実店舗の新規出店が企業HPへ好影響を与えることが判明

iii. クアラルンプール近郊の小売動向

iv. ビッグデータの活用について

・その他

APRC会議と同時に開催されたRECONアジア太平洋において、“Asia Pacific Shopping Center Awards”が発表された。

※2年連続で日本企業の受賞は無し

② マレーシアSC協会主催「PPKM AWARDS」の審査

マレーシアSC協会より「PPK Malaysia ‘Best Experiential Marketing’ Awards 2018」の審査員の依頼があり、日本SC協会理事である高野国際委員長にご担当いただいた。7月15日までにエントリーした43SCについて、7月16日～31日にオンライン審査を実施した。

※PPK Malaysia ‘Best Experiential Marketing’ Awards

マレーシアSC協会主催の「SCマーケティング大賞」。2016年より開催され、今年で3回目を迎える。優れたマーケティング(販促イベント)を実施したSCを表彰する。SCの規模別にA、B、Cの3つのカテゴリーに分かれ、カテゴリーごとに金賞と銀賞が授与される。

③ 日本視察ツアーへの協力等

i. シンガポールHDB訪日視察団との交流

玉川高島屋S・Cに出店しているグラツィアーノの村山社長より東神開発様を通じて「シンガポールHDB訪日視察団」(参加者6名)との交流の依頼があり、大甕顧問(SC経営士会会長)が日本のSC業界の流れや課題、諸外国との比較等についてプレゼンテーションを行った。

日時:2018年5月29日(火) 10:00～12:00

場所:協会会議室

ii. マレーシアSC協会の日本視察ツアーへの協力及び参加者との交流

マレーシアSC協会から、東京周辺のSC視察の協力依頼があった。会員企業にご協力いただき、施設の概要説明を実施した。(計4施設)

また、ツアー期間中に協会会議室にてツアー参加者に向けた日本のSC概況のプレゼンテーションの時間を設けた。高野国際委員長からの「GINZA SIX」の概要説明も併せて行われた。

<ツアー概要>

目的:SCのデザインやフロアレイアウト、テナント構成、VMD、マーケティング手法を学ぶ

参加者:マレーシア協会会員40名(SC運営会社の役員マネージャーが中心)

日程:2018年10月7日(日)～11日(木)(4泊5日)

視察先:(施設概要説明実施)GINZA SIX、東京ソラマチ、六本木ヒルズ、イオンモール幕張新都心、(自由視察)表参道ヒルズ、ラフォーレ原宿、渋谷ヒカリエ、渋谷ストリーム、他

iii. 台湾SC協会の日本視察ツアーへの協力

台湾SC協会から、大阪、京都周辺の商業施設視察ツアーの協力依頼があった。当初予定されていた9月は台風21号の影響で飛行機が欠航となり中止となったが、12月に会員企業各社にご協力いただき、施設の概要説明を実施した。「ルクア大阪」では、調査研究委員会の山田委員長からご説明いただき、高野委員長も同席された。

<ツアー概要>

目的:大阪、京都周辺の商業施設リサーチ、交流

参加者:台湾、中国の商業施設関連業者21名

日程:2018年12月11日(火)～15日(土)(4泊5日)

視察先:ららぽーとEXPOCITY、グランフロント大阪、ルクア大阪、なんばパークス、あべのハルカス、イオンモール堺北花田、りんくうプレミアム・アウトレット

4. 人材育成委員会

1. 委員会開催状況及び審議事項

【人材育成委員会】

- (1) 第1回委員会<6月19日>
 - 1) 2018年度セミナー企画案(10月～12月)
 - 2) 第139回ショッピングセンター海外視察研修ツアー企画案
 - 3) SC経営士資格更新講習
 - 4) SC協会会員外「SC経営士」の会員化の促進
 - 5) SCアカデミーの卒業論文審査基準
- (2) 第2回委員会<9月18日>
 - 1) 第27期SC経営士試験 1次試験合格審査
 - 2) セミナー企画案(2～3月実施予定)
 - 3) 海外研修ツアー企画案(2月米国西海岸)
 - 4) 2019年度上期冠講座・2020年度冠講座(案)
 - 5) SCアカデミー
 - 6) 2019年度SC緑陰トップフォーラムの開催地・テーマ・講師候補
- (3) 第3回委員会<12月17日>
 - 1) 2019年度基本方針・事業計画案
 - 2) 第27期SC経営士2次試験 合格審査
 - 3) セミナー企画案(2019年度4～6月実施予定)
- (4) 第4回委員会<3月6日>
 - 1) 2019年度基本方針・事業計画案
 - 2) セミナー企画案(2019年度7～9月実施予定)
 - 3) 海外研修ツアー企画案(7月米国東海岸)
 - 4) 2019年度SC経営士更新講習案

【SC経営士試験実行委員会】

- (1) 第1回委員会<5月11日>
 - 1) 第27期SC経営士試験問題項目
- (2) 第2回委員会<6月19日>
 - 1) 第27期SC経営士試験問題
 - 2) 二次試験
- (3) 第3回委員会<7月13日>
 - 1) 試験問題と解答の精査
 - 2) 試験当日の試験監督官
 - 3) マークシート採点時
 - 4) 一次試験から二次試験までの日程
- (4) 第4回委員会<9月18日>
 - 1) 第27期SC経営士一次試験結果
 - 2) 二次試験論文テーマ案
 - 3) 二次試験口頭試問
- (5) 第5回委員会<12月17日>
 - 1) 第27期SC経営士二次試験結果・合否判定
 - 2) 二次試験の総括(次期以降への課題など)
 - 3) 当協会ホームページへの二次試験合否判定のポイントの掲載
 - 4) 今年度SC経営士試験の反省点と課題
- (6) 第6回委員会<3月6日>
 - 1) 第28期(2019年度)SC経営士試験

- 2) 第 28 期(2019 年度)SC 経営士試験パンフレットおよび受験案内
 3) 一次試験の問題作成のご担当(案)

2. 主な活動報告

(1)総括

セミナーについては、SC に関する基本的なテーマから、人材確保や新しい時代への対応など、SC 業界の重点テーマを継続的に取り上げ、47 本を開催した。延べ参加者数は 1,843 名(前年実績 1,747 名/前年差+96 名(1 回当たり+0.4 名))と、目標 1,908 名に対して▲65 名という結果であった。新たな取組として、11 月に「ショップ営業力強化セミナー」にて WEB セミナーを実施し、地方会員の満足度向上に努めた。また、新規追加で実施したキャッシュレスセミナーは、昨今の関心の高まりを受けて急遽開催し、今日的な話題の教育機会提供にも繋がった。

海外研修については、「米国東海岸」「ヨーロッパ」「米国西海岸」の 3 本を計画し催行した。特に、2016 年度以降催行していなかったヨーロッパを 11 月に催行し、スイスとイタリアの SC を 27 名で視察を行なった。

SC アカデミーについては、第 12 期は受講生 41 名。「SC 序論(合宿)」、「SC 総論 I」、「SC 総論 II」、「SC 経営実践論」、「特別演習」、と全 5 カリキュラムを実施した。各カリキュラムのフォローアップや卒論指導を目的にゼミも例年通り実施した。今期の特徴としては、近年の卒業論文のレベル、完成度の低下を鑑み、卒論審査基準の改訂を実施した。

SC 経営士試験については、第 27 期 SC 経営士試験を実施し、184 名が受験、最終合格者数は 58 名となった。

(2)事業報告

1)セミナー

年度	開催数	延べ参加者数(a) (1 回当たり平均参加者数)	予定人数(b) (1 回当たり平均参加者数)	比較増減 (a) - (b)
2018 年度	47 本	1,843 名 (39.2 名)	1,908 名 (40.6 名)	-65
2017 年度	45 本	1,747 名 (38.8 名)	1,843 名 (42.8 名)	-96

セミナー名	開催期日	開催地	階層	参加者数 (a)	予定参加 者数(b)	比較増減 (a) - (b)
SC テナントミックス・リーシングセミナー	4 月 19 日	東京	C	32	40	-8
SC 基本管理運営セミナー	4 月 25-26 日	東京	A	46	45	1
4 月	2 本			78	85	-7
テナント向け法律セミナー	5 月 9 日	東京	A	32	30	2
SC 出店契約書作成セミナー	5 月 22 日	東京	A	33	45	-12
AI、IoT、ロボティクス活用セミナー	5 月 24 日	東京	C	29	30	-1
SC 販促イベントセミナー	5 月 31 日	東京	C	70	40	30
5 月	4 本			164	145	19
テナント営業管理担当者ステップアップを目指す第 1 回	6 月 14 日	東京	B	43	45	-2
テナント営業管理担当者ステップアップを目指す第 2 回	6 月 15 日	東京	B	44	45	-1
新入社員向けフレッシューズセミナー	6 月 21 日	東京	A	77	60	17
SC 事業戦略セミナー第 1 回	6 月 27 日	東京	D	24	35	-11
SC 事業戦略セミナー第 2 回	6 月 28 日	東京	D	21	35	-14
6 月	5 本			209	220	-11
リーシング担当者ステップアップを目指す第 1 回	7 月 12 日	東京	B	48	55	-7
リーシング担当者ステップアップを目指す第 2 回	7 月 13 日	東京	B	49	55	-6
SC 法律セミナー	7 月 19 日	東京	C	57	40	17

EC とリアル融合から考える SC の未来セミナー	7月24日	東京	D	72	38	34
人手不足問題対策セミナー①	7月26日	東京	C	17	30	-13
7月	5本			243	218	25
SC 緑陰トップフォーラム	8月1-2日	宮城	E	70	60	10
SC 新規開発・リニューアルに向けたマーケット分析手法	8月7日	東京	C	27	35	-8
5回シリーズ①「SC 管理運営の基礎知識」	8月22日	東京	A	51	50	1
5回シリーズ②「SC テナント営業管理の基礎知識」	8月29日	東京	A	39	50	-11
SC 施設管理セミナー	8月31日	東京	C	44	55	-11
8月	5本			231	250	-19
5回シリーズ③「SC 販売促進の基礎知識」	9月5日	東京	A	43	45	-2
5回シリーズ④「SC リーシング、出店契約の基礎知識」	9月12日	東京	A	44	50	-6
新視点のマーケティング戦略セミナー	9月14日	東京	D	32	30	2
5回シリーズ⑤「SC テナント更新、リニューアルの基礎知識」	9月19日	東京	A	32	50	-18
テークアウトリボン活用セミナー	9月27日	東京	C	23	30	-7
9月	5本			174	205	-31
SC マネージャー交流セミナー (ハレエ千葉)	10月4日	千葉	D	24	45	-21
SC 法律セミナー	10月11日	大阪	C	32	35	-3
危機管理対策セミナー	10月18日	東京	C	41	30	11
SC クレーム対策セミナー	10月25日	東京	C	19	35	-16
10月	4本			116	145	-29
SC 秋晴れトップフォーラム	11月12日	東京	E	21	45	-24
ショップ 営業力強化セミナー	11月21日	東京	C	28	35	-7
SC 基本開発セミナー	11月28-29日	東京	A	26	35	-9
11月	3本			75	115	-40
新時代対応型 SC 戦略セミナー	12月3日	東京	C	24	30	-6
SC におけるテナント従業員教育セミナー	12月4日	東京	C	36	50	-14
キャッシュレスセミナー	12月10日	東京	C	66	0	66
まちづくり・地域活性化セミナー	12月11日	東京	C	37	35	2
SC リニューアルセミナー	12月12日	東京	C	49	50	-1
12月	5本			212	165	47
プロモーション担当者ステップアップを目指す第1回	2月13日	東京	B	39	40	-1
プロモーション担当者ステップアップを目指す第2回	2月14日	東京	B	39	40	-1
SC 基本管理運営セミナー	2月21-22日	大阪	A	32	20	12
テナント向けクレームセミナー	2月28日	東京	A	12	30	-18
2月	4本			122	130	-8
人手不足問題対策セミナー②	3月7日	東京	C	17	30	-13
飲食・食品ゾーン活性化セミナー	3月11日	東京	C	75	55	20
危機管理対策セミナー (食の安全管理)	3月14日	東京	C	53	55	-2
SC マネージャー交流セミナー (日本橋高島屋 S.C.)	3月22日	東京	D	26	45	-19
SC 契約実務対策セミナー	3月27日	東京/大阪	C	48	45	3
3月	5本			219	230	-11
合計	47本			1,843	1,908	-65

階層…A 基本編、B ステップアップ編、C 事例中心、D 中堅向け、E 経営者向け

2)海外研修

年度	開催数	参加者数		
		実績(a)	目標(b)	(a) - (b)
2018年度	3回	73	80	-7
2017年度	3回	67	75	-8

ツアー名	開催期日	訪問都市	参加者数		
			実績(a)	目標(b)	(a)-(b)
第138回	9/26～10/2(7日間)	米国東海岸 (ワシントンD.C/フィラデルフィア/ニューヨーク)	24	25	-1
第139回	11/9～16(8日間)	ヨーロッパ(スイス、イタリア)	27	30	-3
第140回	2/26～3/4(7日間)	米国西海岸 (ロサンゼルス、サンフランシスコ)	22	25	-3

3)通信教育

講座名	2018年度			2017年度	
	実績(a)	目標(b)	比較増減 (a) - (b)	実績(c)	前年度差 (a) - (c)
SC開発講座	138	182	-44	195	-57
SC管理運営講座	449	567	-118	582	-133
合計	587	749	-162	777	-190

4)SCテナントスタッフハンドブック

販売数 236冊 (予算 266冊 2017年度実績 234冊)

5)SCマネジメントブック

販売数 184冊 (予算 177冊 2017年度実績 174冊)

6)サポート関連(講師派遣)

実施数 70件 (予算 51件)

7)SCアカデミー

第12期(今期)は受講生41名。「SC序論(合宿)」、「SC総論Ⅰ」、「SC総論Ⅱ」、「SC経営実践論」、「特別演習」については第12期を踏襲し、全5カリキュラムを実施した。各カリキュラムのフォローアップや卒論指導を目的にゼミも例年通り実施した。

4月4日(木)に第12期修了証授与式・第13期開講式を開催した。

8)冠講座

前期:静岡県立大学 履修学生数約80名

後期:青山学院大学 履修学生数約140名

SC経営士会の協力のもと、上記2校の冠講座を実施。

5. 情報委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

(1)第1回委員会 <7月4日>

1)報告事項

- ①2018年度基本方針・事業計画
- ②第1四半期の活動報告
- ③月刊誌デジタル販売のスタートについて
- ④委託会社(印刷会社)の変更について
- ⑤月刊誌2018年9月号特集について

2)審議事項

- ①月刊誌2018年10月号特集について
- ②月刊誌2018年11月号以降の特集について

(2)第2回委員会 <12月12日>

1)報告事項

- ①4月～12月上旬の活動報告
- ②2018年度4月～10月収支報告

2)審議事項

- ①2019年度月刊誌年間特集テーマ案について
- ②会員向けの月刊誌デジタル版について

(3)第3回委員会 <2月22日>

1)報告事項

- ①2018年度事業報告
- ②2018年度収支見込
- ③月刊誌特集企画(2019年4・5月号)について
- ④会員向け月刊誌デジタル版サービスについて

2)審議事項

- ①2019年度情報委員会基本方針案について
- ②2019年度月刊誌特集テーマ案について
- ④2019年度収支予算について

(4)編集会議(月刊誌)

下記日程にて10回開催。

6月号特集(4月3日)、7.8 合併月号特集(5月2日)、9月号特集(6月8日)、10月号特集(7月10日)、11月号特集(8月6日)、12月号特集(8月31日)、2019年1.2月合併号特集(10月29日)、4月号特集(2018年1月17日)、5月号特集(2月15日)、6月号特集(3月11日)

2. 主な活動報告

(1) 総括

月刊 SC JAPAN TODAY は、モバイル端末で気軽に読める電子ブック化の要望に応え、5月25日より個人を中心とした会員外読者をターゲットに「月刊誌デジタル版」を開始した。各号はフードホールやキャッシュレス決済など時流を捉えた特集テーマを設定し、編集委員ならびに各委員会の協力のもと、実務に直結する事例を中心に紹介している。

広報活動では、協会 Web サイトやメルマガ、プレスリリースを通じて適宜情報発信した。また定例記者懇談会を年2回(7月・12月に)開催して SC 動向や協会活動状況について報告した。

(2) 事業報告

1) 月刊誌

①特集テーマ

- 4月号『SCの働き方改革とES宣言 ～人材確保に待ったなし～』
- 5月号『フードホール ～SC空間の新潮流～』
- 6月号『次の集客を担うサービステナント』
- 7・8月号『特集1 米国流通最新動向 / 特集2 次世代SC運営とテクノロジー』
- 9月号『サードプレイス ～交流と空間の仕掛けづくり～』
- 10月号『キャッシュレス決済 ～導入への期待と課題～』
- 11月号『地方SCの挑戦 ～人が集い、生活の拠点に～』
- 12月号『海外発、話題の専門店を狙う』
- 1・2月号『ミクストユース開発とまちづくり』
- 3月号『第43回日本ショッピングセンター全国大会』

②デジタル版

2018年5月25日より、月刊「SC JAPAN TODAY」デジタル版を販売開始

③印刷会社変更

2018年10月号より印刷会社を変更し、印刷費減につながった。

2) 広報活動

①定例記者懇談会

- ・第1回(夏) 2018年7月28日(金)
場所:ホテルメトロポリタンエドモント
出席者 マスコミ 56名(35社) 理事 13名
発表内容 ES向上・人材確保取り組み
「第8回日本SC大賞」「第6回地域貢献大賞」選考ほか
- ・第2回(冬) 2018年12月20日(木)
場所:ホテルメトロポリタンエドモント
出席者 マスコミ 54名(29社) 理事 15名
発表内容 2019年頭所感
2018年SC動向
人材確保定量調査ほか

②ニュースリリース配信

- ・販売統計(4月～2019年3月) 12回
- ・SC大賞 1回
- ・定期総会 2回
- ・定期記者懇談会 2回
- ・接客ロールプレイングコンテスト 3回
- ・全国大会 2回 計22回
- *記者クラブへの投げ込み 各145件(5月、7月、11月)
(東商記者クラブ30件、国土交通省記者会80件、国土交通省交通運輸記者会15件、
国土交通省建設専門誌記者会20件)

③メルマガ配信

毎月月末に配信。主な内容は協会活動、セミナー募集等。配信数は約5400。

*2018年4月～2019年3月

その他、臨時号として月中(15日)に2018年10月～2019年1月(SCビジネスフェア)、2019年2月(支部開催イベント)を配信した。

④取材対応

- ・韓国経済新聞社(5/10):日本SCの動向及びSC協会の役割について
- ・フジテレビ・プライムニュースイブニング(9/10・11、10/1～5)
:ロープレ関東・甲信越大会、東京大会について
- ・織研新聞社(12/5):SC業界の展望について
- ・ビル経営研究所 週刊ビル経営(12/11):SC業界の販売動向について
- ・商業施設新聞(2/22):平成のSC史について

6. 調査研究委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

(1) 第1回委員会<7月24日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会(2018年3月16日)報告
- ② 2018年度調査研究委員会事業計画骨子(確認)
- ③ 2018年度事業計画の実施スケジュール(確認)
- ④ SC白書2018、ショッピングセンター用語辞典第3版、各種報告書
- ⑤ 月間SC販売統計調査報告
- ⑥ 2018年上期オープンSC

2) 審議事項

- ① テナントの業種区分の細分化
- ② 消費税率の引上げに伴う売上高ならびに賃料の調査方法
- ③ 賃料・共益費調査の実施
- ④ 人材確保に関する定量調査の実施
- ⑤ 夏期バーゲン調査の実施

(2) 第2回委員会<12月5日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会報告
- ② 月間SC販売統計調査報告(2018年7月～2018年10月)
- ③ 2018年夏期バーゲンセール調査報告
- ④ 2018年オープンSC
- ⑤ 人材確保に関する定量調査(途中経過)について
- ⑥ 各種出版物の販売報告

2) 審議事項

- ① テナントの業種区分の細分化について
- ② 売上高等の集計に関する消費税の取扱いについて
- ③ 賃料・共益費調査結果について
- ④ 年末・年始販売動向調査について
- ⑤ SC白書2019の構成について

(3) 第3回委員会<3月18日>

1) 報告事項

- ① 前回委員会報告
- ② SC販売統計調査報告(2018年年間、2019年1月度、2018-19年年年始)
- ③ テナントの業種区分の細分化
- ④ 各種出版物の販売報告
- ⑤ 2018年度調査研究委員会 活動総括
- ⑥ 2018年度調査研究委員会収支見込

2) 審議事項

- ① 2019年度調査研究委員会基本方針及び事業計画骨子(案)
- ② 2019年度調査研究委員会収支予算(案)
- ③ 月間SC販売統計調査のサンプル増について

2. 主な活動報告

(1) 総括

2018年度は、2015年10月から改訂作業を進めた「SC用語辞典第3版」を発刊した。また、SCを取り巻く環境が変化するなか、SCのテナント業種構成に関する問合せがマスコミやSC業界関係者から増加しており、SCデータの一層の充実と会員への情報提供の強化を目指して、テナントの業種区分の細分化について検討した。その結果、白書等で発表している「テナント数業種別構成比」の集計に際し、物販を「衣料品」「食物販」「その他物販」に細分化し、「飲食」「サービス」と合わせて5区分とすることとした。

引き続き、SCオープン情報や計画情報の提供、SC白書の発刊、既存調査(SC販売統計調査、賃料・共益費実態調査)、2015年度から開始した人材確保定量調査の継続調査も実施した。なお、2019年10月1日に予定されている消費税率引上げおよび軽減税率制度導入に対応するため、売上高等の集計に関する消費税の取扱いについて検討し、これまで「税込」で集計していたのを「税抜」に変更することとし、2019年1月度販売統計調査より導入した。

(2) 事業報告

1) SC用語辞典改訂

「SC用語辞典 第3版」の改訂作業を進め、7月10日に発刊した。掲載用語数は1,266語となった。

2) テナント業種区分の細分化の決定

店舗構成からSCの実態(変化)をより正確に把握するため、また利用者ニーズに応えるために、白書等で発表している「テナント数業種別構成比」の集計方法について、テナントの業種区分の細分化を検討した。その結果、物販を「衣料品」「食物販」「その他物販」に細分化し、「飲食」「サービス」と合わせて5区分で集計することとなった。

3) 売上高等の集計に関する消費税の取扱いの見直し

2019年10月1日に予定されている消費税率引上げおよび軽減税率制度導入に対応するため、売上高等の集計に関する消費税の取扱いについて検討し、2019年1月度以降の調査を「税抜」により実施することとした。

4) 各種アンケートのWeb化による効率化

回答者の利便性向上によるサンプル数増加ならびに集計作業効率化のため、これまで紙や電子ファイルで実施していた夏期バーゲン調査、SC賃料・共益費実態調査、人材確保に関する定量調査(テナント)のWeb化を進めた。

5) 定例記者懇談会での調査データ報告

夏(7月)と冬(12月)の定例記者懇談会で、山田委員長から2018年業界動向や人材確保調査等について報告をおこなった。

6) 各種定例調査の実施

① SC販売統計調査の実施

販売統計調査は、月次、四半期、上半期、下半期、年間調査を実施するとともに、夏期バーゲンや年末年始の販売動向調査を着実に実施した。なお、月次販売統計調査は2019年1月度分から「税抜」での調査に変更した。

② SC賃料・共益費実態調査2018の発表

月坪賃料、共益費、総合賃料の調査を実施し、1月25日に協会HP(会員ページ)にて発表した。

③ SC白書2018の発刊

「SC白書2018 ～変革がSCの未来をきりひらく～」を第46回定期総会時(5月31日)に発刊し、全会員に配布した。

④ SCオープン、計画情報およびSC基礎データ一覧の更新

会員のページに、SCオープンと計画情報(月次)、SC基礎データは年1回(6月)に更新を行った。また、一般ページにおいて大店立地法新設届出情報(月次)を掲載した。その他、年2回(7月、12月)の記者懇談会では、オープンSCの概要を発表した。

⑤ 人材確保に関する定量調査の実施

2015年度から開始した「人材確保に関する定量調査(ディベロッパー、テナント)」の継続調査を実施し、概要を12月20日の定例記者懇談会で報告し、全表を協会HP(会員ページ)で1月16日に発表した。調査項目については、人材確保対策特別委員会からの要望を取り入れ、見直しを行った。

7. 全国大会実行委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

(1) 全国大会実行委員会

1) 第1回委員会<6月26日>

- ① 出展募集について
- ② 主催者企画「発見マルシェ」について
- ③ シンポジウム・セミナー企画について
- ④ 特別協賛について
- ⑤ 来場者事前登録システムについて

2) 第2回委員会<9月11日>

- ① シンポジウム・セミナーについて
 - ・ 有料セミナーのプログラムについて
 - ・ 無料セミナー(主催者企画、出展者プレゼンテーション)について
 - ・ 広告募集について
 - ・ 参加者募集(販促)について
 - ・ 懇親パーティーについて
- ② SCビジネスフェアについて
 - ・ インキュベート出展について
 - ・ 展示ホールのゾーニングについて
 - ・ 出展者のブース位置について
 - ・ 主催者企画「発見マルシェ」のレイアウト及び募集について
 - ・ 海外ディベロッパーの誘致について
 - ・ マッチングシステムの導入準備について
- ③ 学生向け SC業界研究イベントについて
 - ・ 来場学生増に向けた施策について
 - ・ 参加企業募集について
 - ・ 来場学生募集について

3) 第3回委員会<11月22日>

以下の開催準備について

- ① 有料・無料セミナー(シンポジウム・セミナー)
- ② SC ビジネスフェア
- ③ SC 業界研究イベント

4) 第4回委員会<2月15日>

- ① SC ビジネスフェア 2019 の開催結果について
- ② SC ビジネスフェア 2020 事業計画骨子(案)および収支予算(案)について

(2) シンポジウム・セミナー小委員会

1) 第1回シンポジウム・セミナー小委員会<5月14日>

- ① 参加形態・参加料金・講演数について

- ②有料セミナー講演・講師候補について
- ③無料セミナーについて
- ④広告募集について

2) 第2回シンポジウム・セミナー小委員会<9月5日>

- ①プログラムについて
- ②無料セミナー(主催者企画、出展者プレゼンテーション)について
- ③広告募集について
- ④参加者募集(販促)について
- ⑤懇親パーティーについて

3) 第3回シンポジウム・セミナー小委員会<11月19日>

- ①当日の運営について
- ②参加者募集について

4) 第4回シンポジウム・セミナー小委員会<2月8日>

- ①SCビジネスフェア 2020 計画概要(案)
- ②SCビジネスフェア 2020 シンポジウム・セミナー計画(案)

(3)リーシング小委員会

1) 第1回リーシング小委員会<5月11日>

- ①リーシング小委員会活動方針について
- ②発見マルシェ参加企業について
- ③出展募集活動計画について

2) 第2回リーシング小委員会<7月20日>

- ①出展募集活動の進捗状況について
- ②テナントゾーン飲食企画について
- ③発見マルシェについて
- ④海外ディベロッパーの募集について

3) 第3回リーシング小委員会<9月4日>

- ①出展募集活動の進捗状況について
- ②飲食ゾーンの出展企業について
- ③発見マルシェについて
- ④海外ディベロッパーの募集について

(4)SC 業界合同企業説明会小委員会

1) 第1回 SC 業界合同企業説明会小委員会<7月11日>

- ①SC 業界研究イベントのエリア・スペースについて
- ②SC 業界研究イベントコンテンツ、タイムスケジュールについて
- ③参加料金について
- ④SC業界研究イベント参加企業募集について
- ⑤来場学生の募集について

- 2) 第2回 SC 業界合同企業説明会小委員会<9月5日>
- ① 来場学生増に向けた施策について
 - ② 参加企業募集について
 - ③ 来場学生募集について
- 3) 第3回 SC 業界合同企業説明会小委員会<11月20日>
- ① イベントプログラムについて
 - ② 会場レイアウトについて
 - ③ 学生募集について
- 4) 第4回 SC 業界合同企業説明会小委員会<2月8日>
- ① SC ビジネスフェア 2020 併催 SC 業界研究イベントの実施について

2. 主な活動報告

(1) 総括

「革新と共生が未来を切りひらく -SC から元気発信-」をテーマに掲げ、展示ホールで開催したSCビジネスフェア(商談展示会)と無料セミナーで、延べ 53,000 人(前回 55,900 人)。そのうち併催の学生向けSC業界研究イベントの学生参加人数は 417 名(前回 255 名)だった。また、2 日間の限定企画「発見マルシェ」では、ポップアップ出店企業のほか、地域産品、地域発ファッションなど多彩な事業者が顔を揃えた。開催期間中、展示ホールでは出展者、来場者による活発な情報交流・商談が行われた。

隣接するアネックスホールでは有料セミナーや懇親パーティーが開催され、延べ 2,000 名(前回 1,600 名)が参加した。

(2) 事業報告

1) SCビジネスフェア

① 展示規模について

・SCビジネスフェア2019 出展者数・小間数 ※()は前回実績

ゾーン	出展者数	小間数
ディベロッパー	55(54)	205(198)
テナント(発見マルシェ 28 社・37 小間含む)	88(79)	149(157)
サポート企業・その他	78(86)	178(189)
学生向けSC業界研究イベント	32(34)	32(34)
合計	253(253)	564(578)

② 概要

i. 「発見マルシェ」

- ・2 回目となる主催者企画「発見マルシェ」(1 月 23 日・24 日)では、ポップアップ出店からテナントへの成長を目指す企業や、地域産品、地域発ファッション、クラウドファンディングなど、多彩な事業者らが出展(28 社・37 小間(共同出展含む))。
- ・前回の課題から、今回は照明計画を施すとともに、ブースの仕様を統一し、共用部には人工芝を敷き、一体感と明るいイメージを打ち出すことを試みた。

ii. 学生向けSC業界研究イベント

- ・学生が志望する業種を分かりやすく訴求し、来場学生を増やすことを目的に、「商業ディベロッパー業界研究フェア」「ファッション業界お仕事研究フェア」と 2 本軸で開催した。

- ・参加企業数は 32 社・34 小間と、前回(34 社・34 小間)をやや下回ったものの、学生にイベント趣旨が伝わりやすくなったことから、来場学生数は 417 名と、前回(255 名)から約 1.6 倍となった。
- iii. 新企画／マッチングシステムについて
 - ・商談促進のため、来場者から出展者へ、出展者から出展者へ、アポイントの事前申請ができる「マッチングシステム」を試験的に導入した。マッチング希望申請は 27 社・31 名からあり、申請件数は 430 件であった。
- iv. 新企画／特別協賛制度について
 - ・初めて導入した特別協賛制度では、楽天と東日本旅客鉄道の 2 社にご協賛いただいた(敬称略)。
 - ・協賛メニューとして、企業ロゴを、初日懇親パーティー会場看板・展示ホール入場証・展示ホール入口サイン(プラチナのみ)、来場者募集リーフレットや公式Webサイト、公式ガイドブック等に掲載した。

2) シンポジウム・セミナー

- ① 有料セミナーに多くの方々に参加していただけるよう、申込形態をこれまでの 1 日単位のほか、単元(講座)ごとの申込形態を加えて、参加料を改定した。
- ② 出展者プレゼンテーションは、主催者からの「テーマに関するお願い」として、SC業界における喫緊の課題、SCを取り巻く環境変化等、聴講者の主となる SC 関係者の興味関心が高いテーマを設定いただくよう依頼して進めた。
- ③ 広告関連では、SCビジネスフェア 2019HP トップページ内に広告バナーを新たに設けたほか、メルマガ(臨時号)に 4 回の PR 文を掲載する広告を設置した。また、事前案内パンフレットと公式ガイドブックの広告料金改定を行った。
- ④ 有料セミナー、無料セミナー応募方法の利便性向上を図るため、スマホサイトを新設した。また、有料セミナーでは、1 講演毎の申込に対応するため、スマホでの申し込みフォームの新規作成を行った。

8. 接客ロールプレイングコンテスト実行委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

【接客ロールプレイングコンテスト実行委員会】

- (1) 第1回委員会 <6月22日>
 - 1) 第24回支部大会開催要領について
 - 2) SC 接客マイスター検定制度について
 - 3) SC 接客マイスター検定再受験・昇級試験について
 - 4) 全国大会審査員候補について(2019年1月25日(金) パシフィコ横浜)
 - 5) その他議題
 - ・ロールプレイングコンテスト事業収支の考え方について
- (2) 第2回委員会 <12月13日>
 - 1) SC 接客マイスター試験 実技試験合否判定について
 - 2) 全国大会の運営について
 - 3) 審査時間の活用について
 - 4) ロールプレイングコンテスト関連事業の見直しについて
- (3) 第3回委員会 <2月27日>
 - 1) 2019年度基本方針(案)・事業計画(案)について
 - 2) SC 接客マイスター2018年度試験の合否判定について

【SC 接客マイスター試験実行小委員会】

- (1) 第1回委員会 <12月5日>
 - 1) SC 接客マイスター検定実技試験合否判定について
 - 2) 筆記試験について
 - 3) 今後の SC 接客マイスタースケジュールについて
- (2) 第2回委員会 <2月15日>
 - 1) SC 接客マイスター2018 筆記試験について
 - 2) SC 接客マイスター試験合否判定について
 - 3) 今後の SC 接客マイスタースケジュールについて
 - 4) 次年度筆記試験問題作成スケジュールについて
- (3) 第1回試験実行小委員会 WG 会議 <6月4日>
 - 1) 筆記試験問題の最終精査について
 - 2) 筆記試験問題確定までのスケジュールについて

【実技試験判定基準作成会議】

- (1) 第1回会議 <1月9日>
 - 1) SC接客マイスター試験制度の見直しについて
 - 2) 検討事項について

【接客ロールプレイングコンテスト新判定基準説明会開催】

- (1) 第1回開催 <7月10日>
- (2) 第2回開催 <7月25日>
 - 1) 説明会開催趣旨
 - 2) ロールプレイングコンテスト2018スタートにあたり
 - 3) 2017年度の採点結果の振り返り
 - 4) 競技方法の再確認
 - 5) 新判定基準の採点試行
 - 6) まとめ

【接客ロールプレイングコンテスト新基準対応俳優行動規範説明/研修会】

- (1) 第1回開催 <5月28日>
- (2) 第2回開催 <6月20日>※震災のため中止
 - 1) 目的
 - 2) 新基準に準拠したお客様役のポイント
 - 3) お客様役プロフィールとニーズ設定ワーク
 - 4) ロールプレイング実習

2. 主な活動報告

(1) 総括

1) ロールプレイングコンテスト

2018年9月4日の関東・甲信越大会を皮切りに、全国7支部8地区において開催された支部大会には、522のショッピングセンター(第23回:531)から1,075名の競技者(第23回:1,056名)が参加。28名の支部代表者が、1月25日(金)開催の全国大会に集結した。

全国大会大賞「SC接客日本一」には「岡山一番街」リーガルシューズの高見幸男さんが選ばれた。高見さんは、「もう一度この人に接客してほしい」と思わせるような人間力が審査員に評価され、大賞「SC接客日本一」、経済産業大臣賞に選出された。

2) SC接客マイスター検定制度

SC接客マイスター試験は、ロールプレイングコンテスト支部大会に出場した1,075名中、375名の申込があり最終合格者は、1級36名、2級40名、3級209名の合計285名となった(再受験合格者2級2名、3級2名を含む。1級は認定証・バッジ希望者数)。

(2) 事業報告

1) ロールプレイングコンテスト

① 支部大会

地区	開催日程	会場
北海道	11月9日(金)	JRタワープラニスホール(札幌エスタ 11F)
東北	10月31日(水)、11月1日(木)	ホテルメトロポリタン仙台
関東・甲信越	9月4日(火)～7日(金) 9月10日(月)～11日(火)	KFCホール(国際ファッションセンター)
東京	10月1日(月)～5日(金)	KFCホール(国際ファッションセンター)
中部	10月23日(火)～25日(木)	メインホール(名古屋市中小企業振興会館)
近畿	10月16日(火)～19日(金)	ホテル京阪京橋
中国・四国	11月5日(月)、6日(火)	さん太ホール(山陽新聞本社ビル)
九州・沖縄	11月13日(火)、14日(水)	西鉄ホール(ソラリアステージ 6F)

② 全国大会受賞者一覧

(敬称略)

賞		氏名	SC名	店名	支部
大賞・経済産業大臣賞		高見 幸男	岡山一番街	リーガルシューズ	中国・四国
食品・飲食・サービス部門	優勝	渡邊 佳祐	アトレ恵比寿	御門屋	東京
	準優勝	福島 未久	小田急本厚木ミロード	山のホテル ボン ロザージュ	関東・甲信越
ファッション・物販部門	優勝	中村 大	グランフロント大阪ショップ&レストラン	ユナイテッドアローズ グリーンレーベルリラクシング	近畿
	準優勝	谷口 優子	イオンモール北戸田	まくらぼ	関東・甲信越
審査員長賞		柿沼 京子	グランデュオ立川	タリーズコーヒー	東京

※上記受賞者以外のすべての全国大会出場者は、「優秀賞」受賞。

③ 協賛金 140 口 7,000 千円(予算:140 口 7,000 千円)

2) SC 接客マイスター検定制度

SC 接客マイスター2018 試験結果(人数)

2018年度(ロールプレイングコンテスト申込者1,075名)

(人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
実技試験結果	41	47	295	7	390

※受験申込のない全国大会出場者15名含む(1級)



筆記試験受験者		47	280		327
---------	--	----	-----	--	-----



最終合格者① (1級は認定証・バッジ希望者、 2級・3級は筆記試験合格者)	36	40	209		285
---	----	----	-----	--	-----

※1級は、筆記試験免除、再受験者2級2名、3級2名を含む

(参考)

【2015年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,013名)

(人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2015年度合格者②	73	75	135		283

※2015年度は、ロールプレイングコンテスト出場者1,013名全員を対象に実技試験を審査

【2016年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,012名)

(人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2016年度合格者③	44	50	208		302

【2017年度】(ロールプレイングコンテスト申込者1,056名)

(人)

	1級	2級	3級	不合格	合計
2017年度合格者④	35	24	217		276

【2015～2018年度】

(人)

2015～2018年度合格者①+②+③+④	188	189	769		1,146
-----------------------	-----	-----	-----	--	-------

※2014年度以前の1級取得者(全国大会出場者)は59名

9. 第8回日本SC大賞・第6回地域貢献大賞選考委員会

1. 委員会開催状況および審議事項

(1) 第1回委員会<6月11日>

- 1) 実施要綱について
 - ① 日本SC大賞
 - ② 地域貢献大賞
- 2) 支部ノミネート<第一次選考>について
 - ① 支部ノミネート委員会
 - ② 支部ノミネート数
 - ③ 支部ノミネート(推薦)について
- 3) 応募について
- 4) 賞の種類および表彰について
- 5) 広報について
- 6) その他

(2) 支部ノミネート委員長会議<7月27日>

- 1) 実施要綱について
 - ① 日本SC大賞
 - ② 地域貢献大賞
- 2) 支部ノミネート<第一次選考>について
 - ① 支部ノミネート委員会
 - ② 支部ノミネート数
 - ③ 支部ノミネート(推薦)について
- 3) 応募について
- 4) 賞の種類および表彰について
- 5) その他

(3) 第2回委員会<12月18日>

- 1) 各支部ノミネートSCの検討
- 2) 最終候補SCのヒアリング・現地調査について
- 3) 最終候補SCの発表について

(4) 第3回委員会<3月5日>

- 1) 第8回日本SC大賞・第6回地域貢献大賞の選出について～最終候補SC現地調査について～
- 2) 今後のスケジュールについて
- 3) 今後の検討事項について

2. 主な活動報告

(1) 総括

2018年度第1回理事会および第46回定期総会にて、「第8回日本SC大賞」「第6回地域貢献大賞」の実施について承認され、選考委員会ならびに支部ノミネート委員会を立ち上げて選考を行った。

第1回選考委員会(6月11日開催)で承認された実施要綱等に基づき、7月上旬から8月末まで協会ホームページで応募SCの申込受付を行った。

支部ノミネート委員長会議(7月27日開催)をへて、第一次選考にあたる各支部ノミネート委員会で支部ノミネートSCを決定。支部からの選考フォーマットをもとに、第2回選考委員会(12月18日開催)で最終候補SCの絞り込みを行った。「2018年冬期定例記者懇談会」(12月20日開催)で選考中であることを報告。

最終候補となったSCについては選考委員会の委員が現地調査を行い、第3回選考委員会(3月5日開催)にて各賞を決定した。

なお、2019年度第1回理事会(4月24日開催)の最終承認をもって、正式決定とし(受賞SCへの連絡)、協会ホームページおよびニュースリリースにて公表。表彰式は、第47回定期総会後に執り行う。

(2) 事業報告

1) 「第8回日本SC大賞」「第6回地域貢献大賞」エントリーSCの募集

応募要領を策定し、会員企業や休会企業へのチラシ配布のほか、記者懇談会(7月27日開催)やニュースリリースにて広報活動を行った。8月末まで協会ホームページで募集受付を行い、「日本SC大賞」へ43SC、「地域貢献大賞」へ32SCのエントリーがあった。

2) 支部ノミネート委員長会議と支部ノミネート委員会について

支部ノミネート委員長会議で「ノミネート委員による他薦を可」とし、9月～11月開催の各支部ノミネート委員会において、応募のあったSCと支部ノミネート委員による推薦SCのなかから支部ノミネートSCを決定。12月3日までに選考委員会へ推薦理由が提出された。

3) 各賞の決定について

各支部ノミネートSC(第一次選考通過 88SC(日本SC大賞 28SC、ニューフェイス賞 9SC、リノベーション賞 13SC、ES賞 13SC、特別賞 12SC、地域貢献大賞 13SC))について、12月開催の第2回選考委員会で各賞最終候補を絞り込み、1月～3月にかけてヒアリング・視察を実施。

3月開催の第3回選考委員会にて各賞を決定した。

4) 表彰について

5月21日開催の「第47回定期総会」後、表彰式を執り行う。

3. 「第8回日本SC大賞」「第6回地域貢献大賞」の選考結果

「第8回日本SC大賞」

■金賞 「二子玉川ライズ・ショッピングセンター」

(推薦支部：関東・甲信越支部)

【選考理由】

東急田園都市線、世田谷区、川崎市内等広域から居住者や通勤通学者等が来街する施設。買い物以外の価値の提供を主眼に、公園・オフィス・ホテル・住宅といった多様な機能をもつことも強みとなって、顧客に新しいライフスタイルを提案している。

自 SC のポジショニングをしっかりと確立し、時間を楽しく過ごす場として幅広い層に支持されている。人々の集う場としてイベントを多く企画し来訪者をもてなし、陳腐化しない、いつも「新しい発見」がある施設をめざした MD で、かつ、古くからの地元店舗や日用品販売等の店舗も共存させ、生活の場としての立地であるが、「気持ちが高揚する」「新しい体験」を得られる施設といえる。地元商店街や町会とともに、さまざまなイベントや防犯活動等にも取り組んでいる。「共創の街」へ、二子玉川の街ブランドとともに高め、国内を代表する高品質な「街」の創造に大きく寄与。現在の駅乗降客数は16万人、1期開業前は10万人で1.6倍増えた。

UDの取り組みにも力を入れており、乳幼児から高齢者まで3世代で楽しめる場を想定して、タウンフロント、リバーフロント、テラスマーケットは2階ですべてつなげて車歩分離ができるようにし、歩道も駅から多摩川までバリアフリー歩道でつなぐ等、安全・安心な環境づくりを行っている。

駅直結の恵まれた立地に負けないMDや顧客対応力が求められる中、日々進化し続けている施設といえる。

■銀賞 「ルクア/ルクアイーレ」

(推薦支部：近畿支部)

【選考理由】

大阪梅田という商業激戦地の中でリノベーションを行い、ルクア(東館)とルクアイーレ(西館)両館の「ルクア大阪」が誕生した。百貨店と専門店を境目なく買い回れるリアル店舗で、徹底的なマーケティングとPDCAにより常に感度と鮮度を保ちつつ顧客をつかんでいる。顧客の視点にたって、キッチン&マーケットという新しい業態の開発、ネットとリアルを融合させた店頭受取サービスなど、注目すべき試みを次々に行っている。

テナントとのコミュニケーションを重視したフロア担当(営業部員)の手厚い配置、地道にPDCAに取り組み、ディベロッパーとテナントの良好な協業関係を築き、来店客数を増加させている。従来ディベロッパーは商品には口出ししないが、在庫数、売れ筋商品、売上目標等、きめ細かくアドバイスし、過去数年成功してきた。

梅田地域の商環境で時流・時代の空気を体感しつつ分析し、それらに機敏に対応する野心溢れる商業施設づくりの在り方は、中心都市における商業施設のベンチマークとして評価できる。

■銅賞および ES 賞 「JR タワー（アピア・エスタ・パセオ・札幌ステラプレイス）」

（推薦支部：北海道支部）

【選考理由】

「もっと、まちになる。」をコンセプトに、アピア、エスタ、パセオ、札幌ステラプレイスの 4SC がそれぞれ個性を活かしつつ、物販や飲食だけでなく「まち」の機能を備えた施設づくり、地域社会にも積極的に貢献している。地域社会の市場性やニーズに基づき駅エリアの商業の方向性を定め、「まち」全体として幅広い客層、多様化するニーズに対応するため以下の施策を実施し、成果を上げた。①14 年ぶりに「エスタ大食品街リニューアル」を実施。②ニトリの新業態「ニトリ EXPRESS」がエスタに初出店。③「JR タワーチャレンジショップ」として、ステラプレイス 3F 催事区画を利用し、北海道発の個性的で新しい価値を提供できるショップを展開。

テナントとのコミュニケーションの活発化のため次の施策を実施。【モチベーションアップ策】「スタッフパーティ」を各館毎に年 2 回開催。毎回セール後にホテルで、スタッフの慰労や感謝を込めて景品があたるゲーム等を実施。昨年は 2,000 人以上が参加。【人材確保支援】ショップスタッフの入れ替わりが激しく採用に関する相談が多いことから、リクルートの採用サイトを JR タワー専用につくり、スタッフの採用支援を行っている。【ショップスタッフ教育】ショップスタッフ研修は年間 70 回以上開催。SC 接客マイスター検定資格取得補助制度も設け、これまでに 22 名が制度活用で資格取得。

JR タワー全体としてサービス向上を図るため、サービス推進チーム、ES 推進チーム、2018 年度からは食品衛生チームを設立して食の安全管理の強化にも取り組んだ。また、ショップの業種ごとにチームをつくり、1 チームが 20～30 のショップマスターと月 1 回のコミュニケーションを活発に、支援など双方向型のコミュニケーションで信頼関係を構築している。なお、2019 年元旦は働き方改革等の動きに鑑み休業とした（一部店舗を除く）。ほかに、「そらのガーデン」「エキヒロ Café」「エキヒロイルミネーション」「JR タワー子ども見学会」「JR タワーおとな大学」「JR タワー昔あそび」「JR タワーこども科学展」を実施。街としての「くつろぎ」や「賑わい」創出に取り組んでいる。

■ニューフェイス賞 「GINZA SIX」

（推薦支部：関東・甲信越支部）

【選考理由】

銀座の街のポテンシャルを活かし、国内外の人々の潜在的な期待に応える施設づくりを実施。銀座地区から国内外への情報発信が増え、街への集客も飛躍的に高まり、地域の活性化に貢献。また、銀座連合会をはじめとする銀座地区商店街との連携をはかり、街の活性化に取り組んでいる。

新しいことへの挑戦、究極のユニーク性を追求。各ブランドの世界観が顧客の五感を刺激し、「発見」「ものづくりへの関心」「本店をみたい欲求」等を満たせる施設として顧客の共感を呼んでいる。開業時のテナント 241 店のうち 121 店が旗艦店で、フラッグシップとして限定イベント招待等のサービスが活発に行われている。また、ポップアップショップの展開にも積極的である。

テナント従業員とはギンザシックスプレゼンターマインドを約束。継続・強固なものにするべく、テナントとのコミュニケーション活動（ES・研修・ミーティング）に注力している。レストランでの懇親会、能やおもてなしの学習受講等を通じ、GINZA SIX で働く全員が本物を学び、本物に触れ、そして成長することでお客様に本質的な価値をもたらすことができるようになることをめざしている。

ラグジュアリーモールとして、日本にただ 1 つの外観とテナントの個性や世界観を維持できるような施設で

ある。一歩中に入ると「アート」に触れる高揚感と、「本物のラグジュアリー」を観たり触ったりできる体感を来館者に提供。「アートで人を豊かにする」が特徴的で、来館者から「アートの場」としての評価が高い。

初年度の来館者数は約 2,000 万人と目標をクリアした。

■リノベーション賞 「ニッケパークタウン」

(推薦支部：近畿支部)

【選考理由】

改装にあたっては、3 ヶ月間全売り場を閉めた。新しく生まれ変わる SC で何をめざすかを検討する中で、5 歳児をもつヤングファミリーをメインターゲットに大型区画の店舗誘致を行った。「ミーツテラス」には近隣にないテナントや時間消費型のテナントを導入し、広域商圈からの集客にも成功している。施設面の大がかりなリニューアルによって、顧客の快適性が高まり、フードコートでは子供連れファミリーが小上がりスペースで食事を楽しんでいる光景が見られる。

リニューアルオープンから 24 ヶ月連続で売上げが前年をクリアし、当初予想の 1.5 倍となっている。来館者数も 550 万人から 850 万人へ増加を見込む。売場・集客が大きく改善し、非常に効果的なリノベーションだと評価できる。

イベントは年間 300 回実施。ユニークなものとしては、託児スペースを用意したママ向けのワークショップや、地域の高校生が子供たちに教えるものづくり工作教室等、地域とのつながりを意識し、地域の力を借りながら子供の成長につながる取り組みを行っている。

加古川はニッケの発祥地であるが、加古川市民 10 人に 1 人が同施設のメルマガ会員になっているのは驚異的といえる。リニューアルオープン時には、SNS に「ニッケやるなあ」という地元客の好意的な投稿が多かった。

■ES 賞「新静岡セノバ」

(推薦支部：中部支部)

【選考理由】

セノバで働いている人は「セノバファミリーである」という思いを込めて、ディベロッパーは、セノバで働いているスタッフに「退屈させない」という熱意のもと、さまざまな施策に取り組んでいる。

企業主導型保育の SC 導入全国 3 施設目となる「セノバ保育園」は、テナントスタッフサポートとして同社が投資・運営（運営は委託）し、職員の 26 名中 18 名をテナント従業員として直接契約する。土日営業や 21 時までの無料延長保育、自園給食施設（厨房を備える）によるきめ細かな食事対応（アレルギー対応等）等を行なっている。特筆すべきは、マネジメントオフィス業務アンケートの実施結果を踏まえて開園にいたったことである。1 年の準備期間に子育て中のスタッフに何度もヒアリングを重ね、施設設備や運営サービスの内容を組み立てた。ES の視点で徹底的にやる、という姿勢が支持され、保育園利用目的を動機として求職エントリーする従業員も増加している。

また、アンケートをもとに電子タバコ専用の喫煙ルームの設置や、タブレット全店配布も行った。こうしたアンケートやヒアリング、日々のコミュニケーションからの情報をもとに、テナントスタッフのことを思った工夫がなされている。

テナントスタッフとの距離を縮めようと、スタッフ懇親パーティーを年 2 回開催。1500～1600 名のスタッ

フがいる中で、夏 400 名超、冬 500 名超が参加する。テナントに限らず、施設管理（駐車場・警備・清掃）のスタッフ向けにも年 1 回もてなす会を実施している。ほかに、接客ロープレコンテスト「セノ-1 グランプリ」（優勝者にはオリジナルバッジを贈呈）や、セノバアカデミー（店長やテナントスタッフ向け研修会）の実施。2019 年 1 月の SC 接客ロールプレイングコンテスト全国大会には、館をあげてバスで応援に駆けつけた。

SC 協会の「ES 宣言・行動指針」を受けて、休館日設定やレストランフロアの閉店 1 時間前倒しを実施（2019 年 2 月）、従業員の業務負担軽減に制度的に結び付くものと期待される。

■特別賞 「南三陸さんさん商店街」

（推薦支部：東北支部）

【選考理由】

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では宮城県沿岸部の商業施設が大きな被害を受け、多くの商業者が廃業する中、南三陸町の店主たちが結束し、震災直後から「福興市」を開催。2012 年には仮設商店街を設置して営業を再開し、2017 年に本設商店街を開設した。震災後に 8.3mかさ上げされた高台の造成地に、南三陸産の杉材を使用した平屋の集合店舗を 6 棟設置。飲食店や生活関連店舗、鮮魚店等 28 店舗が集積し、地元南三陸町の町民の生活を支える商業施設であるとともに、南三陸町を来訪する観光客等に新鮮な魚や料理、海産物等の土産物を提供している。

「南三陸さんさん商店街」の運営にあたっては部門毎に委員会を設置し、イベント等の企画や施設に関する打合せを行っている。仮設商店街時代からの、いくらやうに等をたっぷり使った「きらきら丼」は、南三陸のブランドグルメに成長し、これを目当てにするリピーターも多く、各店舗がその味を競っている。商店街の名物メニュー開発やイベント等メディアで紹介されることも多く、さんさん商店街自体が被災地の賑わい創出モデルとなっている。

テナントは、30 代・40 代が店主の店舗も多く、若い店主を中心にみんながアイデアを出し合いながら、活き活きと商売を行っている。未来に向けた「明るさ」が感じられるだけでなく、事業継続に向けて実直に物事を進められている様子がうかがえる。敷地内の清掃等環境整備にテナントが積極的に取り組んでおり、また商店街では自主防災組織を結成し、町の防災訓練に合わせた自主防災訓練を行い、来訪者の安全を図っている。

「第6回地域貢献大賞」

■大賞（倉橋良雄賞） 「ポップタウン住道オペラパーク」

（推薦支部：近畿支部）

【選考理由】

地元の大東市で呉服小売りからスタートし、1972年よりSCビジネスに参入。オペラとクラシックのコンサートを館内で開くことと、地域住民の願いでもあった百貨店のあるSCを創るという現会長の積年の夢を叶えるべく大規模リノベーションを実施し、2010年に館名も「オペラパーク」として生まれ変わった。百貨店・GMSを核としてさまざまな業種や商品を揃え、“ハレ”のお買いものから、“日常”のお買いものまで、地域のお客様の生活をサポートする商品の充実を図っている。また、さまざまなカテゴリーの商品を催事企画で販売し、“にぎわい”を創出するとともに欠落アイテムを補完することで、生活者の利便性向上に努めている。

SCの規模拡大を機に地元求人を促進させ、近隣住民を含め約1,500名の雇用を創出。幅広い年齢層の雇用を生み出し、世代継承型雇用創出に寄与している。また、近隣の保育園とタイアップし、子育てしながら働く従業員を支援している。

館内にはオペラパーク八景と呼ぶエリアをつくり、その1つである『プラザフェスタ』の吹き抜け空間にはパイプオルガンを設置する。そこでは定期的にミニオペラコンサートを開催。特筆すべき点として、館独自のクラシックオーケストラを結成。定期コンサートや社会・文化行事に相応しい音楽イベントを数多く開催し、地域の子供たちやファミリーから絶大な支持を受けている。音楽を通じた文化の浸透や情操教育にも寄与し、その様子は逐次web上で公開され、文化的なSCの姿を市民が常に共有できるようにしている。

官民一体型のSCとして現在進行中の「大東市新庁舎整備基本計画」に伴う大東市役所庁舎の移転計画では、当施設敷地および隣接する形で新市役所庁舎の移転協議が進められている。今後、行政と一体となって大東市を盛り上げる地域のインフラ型複合商業施設として、役割の強化を具体的に計画している。行政と連携し地域の防災拠点の役割を備え、地域密着型のテナント構成、地域文化の啓発への取り組み等、今後ソーシャル機能を充たす新たなSCとしての萌芽を感じる。

■地域貢献賞（北海道支部）「赤れんがテラス」

【選考理由】

施設の2階には「アトリウムテラス」という来館者が溜まることができる・時間を過ごせる空間を整備し、プロスポーツチーム公式戦のパブリックビューイングを行う等、賑わいづくりを意識している。札幌の観光スポットとして赤れんが庁舎周辺をひき立たせ、市民のみならず道外・国外の観光客に喜ばれる空間を創出している。一方で、BCPに優れた特性を活かし、札幌市の防災拠点にもなっている。

■地域貢献賞（東北支部）「イオンモール天童」

【選考理由】

山形県天童市の特産品である将棋駒や、地元を代表する天童木工との関係構築、地元の東北芸術工科大学との連携、地域住民のための夏祭り企画等、地域資産の情報発信等を、イオンモールをプラットフォームとして推進。天童にさらなる発展の一助となっている。

なお、イオンモール天童は地域の人々に『イモ天』という愛称で親しまれており、「南山形ことば新しい方

言」(東北文教大学 地域連携・ボランティアセンター著)にそのことが記載されている。

■地域貢献賞(関東・甲信越支部)「南砂町ショッピングセンターSUNAMO」

【選考理由】

周辺に居住する生活者に良質で快適な生活を提案し地域のお客様が集い楽しめる”サードプレイス”として、地域に根差したさまざまな取り組みを行っている。イベントを通じて顧客同士のつながりができるなど、子育てファミリーのつながりに加えて、地域には高齢者が多いため健康増進の体操イベントなどコミュニティの核としての役割を果たしている。

通常の販促活動やテナント主催イベント・ワークショップに加え、まちの行事への積極参加や防災・防犯・子育て支援をはじめとする行政との連携イベント、地元スポーツイベントへの協賛、地元近隣施設との相互集客タイアップ、エコプロジェクト等、地域に密着したイベント活動を積極的に行っている。

■地域貢献賞(中部支部)「ラスカ熱海」

【選考理由】

商工会議所や行政・観光協会等との連携を6年かけて行い、イベント、駅前広場、地域ブランド開発と出店(準公募制)、プロモーションにいたるまで合意形成を行いながら開業後も継続実施しており、それらは乗降客数増や売上高増につながり、観光客・足元顧客にも支持をされている。

出店テナントの一つでもある地域ブランド「A-PLUS」は、選りすぐりの47事業所85品目を認定し、これがフックとなって、本店のある中心地商店街への来店誘因にもつながっている。

■地域貢献賞(中国・四国支部)「イオンモール倉敷」

【選考理由】

東日本大震災以降、イオングループとして災害時対応がマニュアル化され、「西日本豪雨」発生時には「倉敷市危機管理センター」の要請を受けて立体駐車場を避難場所として開放する等、ディベロッパースタッフの災害経験者が中心となって素早い対応を取ってきたことで地元生活者からの信頼を得ている。このほか、地域の育児支援サービス、お客様同士の情報交換や相互支援サポート等、SCとして息の長い活動を続けてきており、地域コミュニティの育成に高い評価を得ている。

■地域貢献賞(九州・沖縄支部)「鳥栖プレミアム・アウトレット」

【選考理由】

九州全域からの交通網が整備されていることや、各地の観光施設と相互集客企画を実施する等して、佐賀県内に留まらず全九州で貢献し、多くの顧客に支持されている。また、地元行政とも連携して「観光物産展」を開催し名産品をPR、また「サガン鳥栖」のスポンサーとして鳥栖を盛り上げる企画を継続的に実施。

交通の便の良さに加えてインターンシップの実施による就労支援や、スタッフのモチベーション向上に注力し、従業員約1,650名の地域雇用を創出する。

10. SC 経営士会

1. 会議開催状況および審議事項

(1) SC経営士会幹事会

1) 第1回幹事会<6月29日>

- ①新生SC経営士会の役割について
- ②SC経営士会の組織について
- ③2018年度活動スケジュールについて
- ④人材育成委員会からの依頼について
- ⑤研究テーマの検討について
- ⑥協会会員の募集について

2) 第2回幹事会<10月4日>

- ①活動スケジュールについて
- ②「秋の例会」について
- ③研鑽・研究グループの研究テーマ等について
- ④SCビジネスフェア2019 SC経営士会セミナー企画等について
- ⑤2019年度SC経営士会活動計画の検討について

3) 第3回幹事会<12月14日>

- ①SC経営士会年次ゼネラルミーティングの運営等について
- ②ビジネスフェア2019 SC経営士会セミナー及び協会ブース内SC経営士会コーナーの企画について
- ③「春の例会」の企画について
- ④研鑽・研究グループの2019年度の活動について
- ⑤2019年度SC経営士会活動計画骨子(案)について
- ⑥2018年度収支予想及び2019年度収支予算(案)について

4) 第4回幹事会<3月1日>

- ①2019年度SC経営士会活動計画骨子(案)について
- ②SC経営士会 関東・甲信越ブロック 新SC経営士歓迎イベント開催について
- ③中部ブロックセミナー企画(案)について
- ④SC経営士会ニュース編集方針の検討にあたって

このほかに、SC経営士会会長・副会長会議(4回)を、SC経営士会各ブロックではブロック会議を開催した。

2. 主な活動報告

(1) 新生SC経営士会の役割について

2018年度、新生SC経営士会のスタートにあたり、SC経営士会の役割について取りまとめ、これに基づいて活動を進めている。

1) SC経営士会の目的

SC経営士会は、従来の活動であるSC経営士相互の研鑽と交流のほか、新たにSC業界が抱える課題解決に向けた研究、また協会委員会のサポート活動等を加えて、専門的な見地から広範にわたりSC業界の発展、協会活動の支援を行うことで協会のシンクタンクの機能を担うものとする。

SC経営士会を企画会議に直結した委員会と同列に位置づけられたことを受けて、自律的かつ機動的に活動する。

2) ブロック

協会の支部と同様に7ブロックとし、ブロック内でのSC経営士相互の交流を促進するための行事を企画し幹事会に諮問し、計画、執行する。

3) 専門グループ

専門グループは研鑽・研究グループ、業務・広報グループの2つとする。

【研鑽・研究グループ】

- ・研鑽のためのセミナー等の各行事を企画立案し、幹事会に諮問する。
- ・SC協会の各委員会等から委嘱されたテーマ、ならびに独自のテーマに関して相応しいSC経営士を選しチームを組成する。また、それぞれのチームは与えられたテーマに対し研究活動を行う。

【業務・広報グループ】

- ・SC経営士会の運営を円滑に行うためにSC協会事務局と協力し、業務調整を行った上で執行する。
- ・主たる業務は、SC経営士会会員相互のための名簿作成、各行事の記録、SC経営士会年間活動記録の作成、ならびにSC全国大会ビジネスフェアへの出展等。
- ・SC経営士の知名度向上に寄与するため、研鑽・研究グループと連携し各種広報活動を行う。

(2) 「例会」について

1) 「夏の例会」

- ・日時:8月23日(木) ・場所:協会会議室
- ・プログラム:セミナー『流通企業におけるデジタルシフトの本質とは～デジタルシフトの波に日本企業はどう立ち向かうか!～』<講師> (株)デジタルシフトウェーブ 代表取締役社長 鈴木 康弘氏 / 交流会
- ・参加者:セミナー 85名、交流会 73名

2) 「秋の例会」

- ・日時:11月16日(金) ・場所: TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター
- ・プログラム:話題の大型都心商業施設研究 東京ミッドタウン日比谷、日本橋高島屋S.C. / 交流会
- ・参加者:セミナー 104名、交流会 57名

3) 「春の例会」

- ・日時:2019年3月7日(木)～8日(金) ・場所: 広島地区
- ・プログラム:視察 ジ・アウトレット、レクト、エキエ / 交流会
- ・参加者:視察 34名、交流会 36名 ・オプションで2日目午後、岡山県倉敷市真備町を視察した。

(3) 「年次ゼネラルミーティング」について

- ・日時:2019年1月23日(水) 11:00～12:30 ・場所:パシフィコ横浜 会議センター5階
- ・プログラム:SC経営士会会長挨拶、新SC経営士紹介(インタビュー)、副会長・ブロック長紹介、2018年度活動報告、2019年度活動計画、新SC経営士対抗クイズ～SCカルトQ、参加者交流会 参加者:134人

(4) SCビジネスフェア2019

- ・セミナー:「今、見ておくべきSC 2019 ～白熱!生トーク～」 聴講者238人
- ・協会ブース内SC経営士コーナー:「防災・減災フェスタ」 実例を写真を交えてSC経営士を中心に紹介。

(5) SC経営士登録更新講習について

人材育成委員会からの依頼を受けて、SC経営士登録更新講習を企画し、2018年度SC経営士更新講習を大阪(9/6、受講者30名)、東京(10/10、71名)にて行った。なお、SC経営士は2018年度、第27期試験合格者を加えて、合計669名となった。

(6) 冠講座の企画について

冠講座についても人材育成委員会から依頼を受けて、2019年度に実施予定の岩手県立大学でのカリキュラム案をまとめた。具体的には、協会事務局と連携して、カリキュラムのそれぞれの単元について、協会支部管内の企業、SC経営士等の講師案を作成した。

(7) SC経営士会ニュースの配信について

新生SC経営士会のスタートにあたり、業務・広報グループから、SC経営士会ニュースの配信を行っている。これにより、SC経営士どうしの情報共有につなげるとともに、活動のさらなる活発化につなげていく。

SC経営士会ニュースは、第1号(8月6日発行)から第6号(3月15日発行)まで、6回配信した。

2018年度 SC経営士会 活動実績

	2018年度											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
SC協行行事		■4/27 第1回理事会(2018年度活動計画決定) ■5/31 定期総会(2018年度活動計画決定)					■10/16 企画会議 ■10/24 第3回理事会			■11/23~25 SC全国大会		■企 ■画
幹事会		■5/18 旧幹事会 ■6/29 新幹事会(第1回幹事会) ■7/27 正副会長会議(第1回)				■9/13 正副会長会議	■10/4 第2回幹事会 ■10/3 正副会長会議		■12/14 第3回幹事会(2019年度活動計画検討)			■3/1 第4回幹事会(2019年度活
例会					■8/23 夏の例会			■11/16 秋の例会			■/23 年次ゼネラルMT ■3/7~8	
研鑽・研究グループ					□グループMT(研究テーマの検討等)						■/23 中間報告(年次ゼネラ	
業務・広報グループ					■委員会サポート(80経営士更新講習、冠講座等)							
					■SC経営士会業務執行							
					■8/6 SC経営士会ニュースNo.1 ■9/10 SC経営士会ニュースNo.2		■SCビジネスフェア対応			■/18 SC経営士会ニュース No.5 ■3/15 SC経営士会ニュース No.6		
					■グループMT							
北海道ブロック			■6/12 セミナー・交流会				■10/11、10/25、11/8、1/29 SC連場			通期/商店街・支援団体との交流・研 ■1/17 北星学園大学コマラボ講座		
東北ブロック		■6/8 視察研究会(青森:五所川原地区SC)						■12月 交流会			■ブロック運営会議、懇親	
関東・甲信越ブロック			■5/11 ブロック運営会議		■8/23 セミナー(夏の例会)		■11/16 視察会(東京ミッドタウン日比谷・甲本橋高島屋SC)			■3/7~8 広島地区		
			■6/12 ブロック運営会議、懇親会	■8/3 ブロック運営会議	■9/20 ブロック運営会議	■11/8 ブロック運営会議				■1/17 ブロック運営会議		
中部ブロック			■7/11 SC経営士若テラス勉強会	■8/30 SC経営士若テラス勉強会							■2/12 ブロック運営	
			■4/26 ブロック運営会議 懇親会	■7/18 ブロック運営会議 懇親会				■11/20 ブロック運営会議				
近畿ブロック			■6/15 ヒオレ姫路視察 (SC研究会協力)	■9/7 E\$ディスプレイ (SC研究会協力)							■2/5 ブロック運営会議、ミニセミ	
								■12/3 天王寺MIO視察(SC研究会協力)				■出張
中国・四国ブロック					■10/25 ブロック運営会議、懇親会							■3/7~8 広島地区視
九州・沖縄ブロック					■10/31 ブロック運営会議、懇親会							■4/22 SC視察